



化学事業を通じて

より多くの人々と

より多くの幸福を分かち合う



東亜合成グループレポート

2018



# 化学事業を通じて より多くの人々と より多くの幸福を分かち合う

私たちは、化学の力で新たな価値の創造に挑戦し、  
持続可能な社会の実現に貢献します。

東亜合成グループは、カセイソーダ、アクリル酸エステル  
や塩化ビニル製管工機材など産業の基盤を担う汎用製品  
から瞬間接着剤「アロンアルファ®」、光硬化型樹脂「アロニッ  
クス®」、銀系無機抗菌剤「ノバロン®」、介護用品「安寿」など  
特色ある技術をもとにした高付加価値製品までさまざまな  
製品の提供を通じて、社会の発展に貢献しています。

私たちはこれからも、化学企業グループとして安全・安定  
操業と安心なものづくりを徹底し、持続可能な社会に貢献す  
る新たな価値を創造することで、株主、お客様、取引先、地域  
社会、従業員といったステークホルダーの皆さまの期待にお  
応えしてまいります。

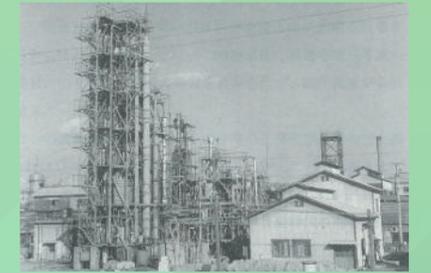
代表取締役社長

高村美己志

## CONTENTS

### 東亜合成グループとは

- 03 東亜合成グループの軌跡
- 05 東亜合成グループの概要
- 07 社会を支える東亜合成グループの製品
- 09 財務・非財務ハイライト



### 東亜合成グループの 目指す姿と成長戦略

- 11 トップコミットメント
- 17 特集 中期経営計画  
「成長への軌道2019」の進捗について
- 19 事業概況と成長戦略
- 29 成長戦略を支える研究開発



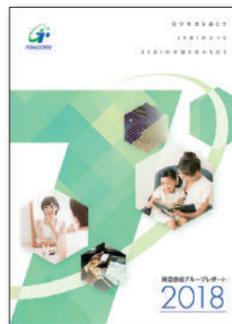
### 成長を支えるCSRマネジメント

- |                |                      |
|----------------|----------------------|
| 33 CSRマネジメント   | 53 製品安全              |
| 37 CSR活動概要     | 54 品質保証              |
| 39 コーポレートガバナンス | 55 物流安全              |
| 43 コンプライアンス    | 56 人権                |
| 44 RCマネジメント    | 57 人財育成              |
| 45 環境保全        | 60 社会貢献・コミュニケーションの充実 |
| 50 保安防災        | 62 サイトレポート           |
| 51 労働安全衛生      |                      |



#### 編集方針

当社グループの経営戦略や各種取  
組みをステークホルダーの皆様にご理  
解いただくために「東亜合成グループ  
レポート」を作成しています。編集にあ  
たっては、経営の方向性や戦略、事業  
概況に加え、環境、社会的側面など  
に関する非財務情報を総合的に取り入  
れています。



#### PDCA表の達成状況欄について

- ★★★★：目標達成
- ★★★：進捗遅れがあり一部未達(目標の80%以上)
- ★★：目標未達(目標の80%未満)

#### 対象組織

本報告書は東亜合成およびグループ会社を対象としています。掲載した  
環境データは49ページ(「事業活動と環境負荷」の項目)に記載している  
製造に携わる国内の会社・事業所を対象に集計したものです。なお、工  
場名のみ表記は東亜合成の事業所を指します。

#### 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」2012年度版  
国際統合報告評議会(IIRC)国際統合報告フレームワーク

#### 発行時期

2018年3月(前回：2017年3月/次回：2019年3月(予定))

#### 対象期間

本報告書に記載したグラフや表は、2017年1月1日から12月31日ま  
での1年間の集計データです。また、掲載記事には一部2018年の活動も  
含んでいます。

### コミュニケーション ツールのご案内

#### お問い合わせ先

本報告書の内容に関するご意見、  
ご質問などがございましたら、下記  
までご連絡願います。

東亜合成株式会社  
グループ経営本部 IR広報部  
〒105-8419  
東京都港区西新橋一丁目14番1号  
TEL：03(3597)7215  
FAX：03(3597)7217

#### 全ての皆様へ



東亜合成コーポレートサイト  
<http://www.toagosei.co.jp/>

#### 株主の皆様へ



第105期 株主通信

#### 全てのステークホルダー の皆様へ



東亜合成グループ  
レポート2018

# 東亜合成グループの軌跡

当社グループは社会がめまぐるしく変化中、化学の力によって新たな価値を創造してまいりました。

1960年には、アクリル酸エステルの工業生産に日本で初めて成功、1963年に生産を開始した「アロンアルファ®」は、接着剤に対する世界の常識を変えました。

これからも社会の期待に応える新製品、新技術を開発し、中長期的な企業価値の向上に努めてまいります。

第4期

## 技術と高付加価値製品で存在感のある企業グループへ

第3期の戦略をさらに加速し、高機能・高付加価値製品の拡大と海外事業展開の強化による経営基盤の質的転換を推進。

2019年  
創立75周年

- 1963年 瞬間接着剤「アロンアルファ®」生産開始。
- 1972年 光硬化型樹脂「アロニックス®」生産開始。
- 1989年 米国に当社初の海外現地法人設立。
- 1990年代~ アジアを中心に海外各地で機能製品の製造・販売拠点を設立。
- 2006年 水処理薬品の製造・販売合併会社設立。

第3期

## 1970年代~ 機能製品発展期

石油危機による大量生産品の不振などの難局を乗り越え、景気変動に左右されない企業体質を創り出すべく、独自の技術を生かし、アロンアルファ®、アロニックス®といった機能製品を主力製品として育成。

- 1950年 オークライト工業(現アロン化成)発足。
- 1951年 オークライト工業(現アロン化成)がわが国初の硬質塩化ビニル管の製造に成功。
- 1960年 わが国初のアクリル酸エステルの企業化に成功。
- 1983年 アクリル酸の製造を目的に「大分ケミカル」設立。



発売当初のアロンアルファ



1993 米国での瞬間接着剤工場起工式



2011 R&D総合センター開設



2011 アロン化成ものづくりセンター開設

- 1916年 当社の淵源となる「東海曹達」設立。
- 1933年 硫酸や硫酸、硝酸などを製造する目的で、当社の母体となる「矢作工業」設立。
- 1944年 矢作工業が昭和曹達、北海曹達およびレーヨン曹達のソーダ3社を合併し、社名を「東亜合成化学工業」に改称。これをもって当社の創立とする。
- 1957年 徳島県にカセイソーダと有機溶剤を生産する新工場(徳島工場)を開設。

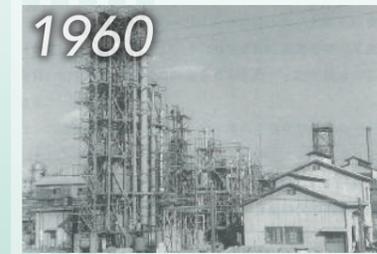
第2期

## 1960年代~ 石油化学製品 発展期

電解製品に加え、アクリル酸エステル、塩化ビニル樹脂、塩素系有機溶剤など、石油化学製品の事業展開が進んだ時期。



1951 日本初の硬質塩化ビニル管を手に



1960 名古屋工場アクリル酸エステルプラント



1983 大分ケミカル設立

第1期

## 1910年代~1960年代 基礎化学製品 発展期

産業の基礎素材となる電解製品や食糧増産のための肥料がわが国化学工業の主流を占める時代において、ソーダ、アンモニア、硫酸、硫酸等を主力に事業を展開。



製品案内(1950年代前半)



1957 徳島工場開設



1966 本社全景(1966年頃)



1985 名古屋工場電解設備をイオン交換膜法に転換

■ 売上高(単体)  
■ 売上高(連結)

1950 1960 1970 1980 1990 2000 2010 2018

# 東亜合成グループの概要

当社は1944年(昭和19年)7月17日の創立以来、わが国の化学産業の発展とともに成長し続けてきました。

当社グループは、基幹化学品、ポリマー・オリゴマー、接着材料、高性能無機材料、樹脂加工製品の事業領域で、独自の強みを発揮し、技術と製品の領域を拡大しています。

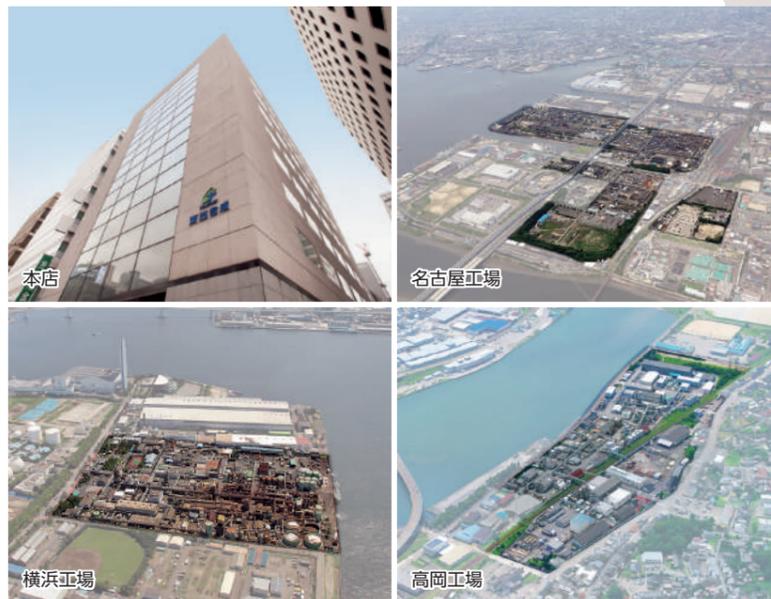
## 会社概要

創立 1944年7月17日  
 本社所在地 東京都港区西新橋一丁目14番1号  
 代表取締役社長 高村 美己志  
 資本金 20,886百万円  
 従業員数 2,393名(連結)  
 (2017年12月31日現在)  
 主要な事業内容

部門	製品
基幹化学品事業	カゼインソーダ、カゼイカリ、次亜塩素酸ソーダなどの無機塩化物、硫酸、アクリルモノマー、工業用ガス等
ポリマー・オリゴマー事業	アクリルポリマー、高分子凝集剤、光硬化型樹脂等
接着材料事業	瞬間接着剤、機能性接着剤
高性能無機材料事業	無機高純度品、無機機能材料
樹脂加工製品事業	管工機材製品、建築・土木製品、ライフサポート製品、エラストマー、環境関連製品

## シンボルマークについて

TOAの「T」とGOSEIの「G」をモチーフにしました。特に「T」を強調することによって「TRUST(信頼)」「TECHNOLOGY(技術)」を表現。信頼と技術を基盤に、豊かな想像力を発揮していこうという当社の姿勢を象徴化しました。また「T」のエレメントは「力」、「G」のループは「感性」、3つの円はそれらの融合が生み出す新しい可能性を表しています。



## ASIA

### 中国

- Toagosei Hong Kong Limited
- 東亜合成(珠海)有限公司 ..... ▶P.64
- 張家港東亞迪愛生化学有限公司 ..... ▶P.64

### シンガポール

- Toagosei Singapore Pte Ltd. .... ▶P.64

### タイ

- Toagosei (Thailand) Co.,Ltd. .... ▶P.64

### 韓国

- 東亜合成KOREA株式会社



張家港東亞迪愛生化学有限公司

### 台湾

- 台湾東亜合成股份有限公司
- 東昌化学股份有限公司 ..... ▶P.64

## JAPAN

### 東亜合成株式会社

- 本店/大阪支店/名古屋支店/四国営業所/福岡営業所/名古屋工場/横浜工場/高岡工場 ..... ▶P.62
- 徳島工場/坂出工場/川崎工場/広野工場 ..... ▶P.62
- R&D総合センター/先端科学研究所 ..... ▶P.63

### 主な関係会社

- アロン化成株式会社 ..... ▶P.63
- MTアックアポリマー株式会社
- 大分ケミカル株式会社 ..... ▶P.63
- 東亜テクノガス株式会社
- 株式会社TGコーポレーション
- 東亜ビジネスアソシエ株式会社
- 東亜興業株式会社
- 東亜物流株式会社
- 北陸東亜物流株式会社
- 四国東亜物流株式会社
- アロン包装株式会社
- MTエチレンカーボネート株式会社
- 東亜建装株式会社



## AMERICA

### アメリカ

- Toagosei America Inc. .... ▶P.64
- Elmer's & Toagosei Co.

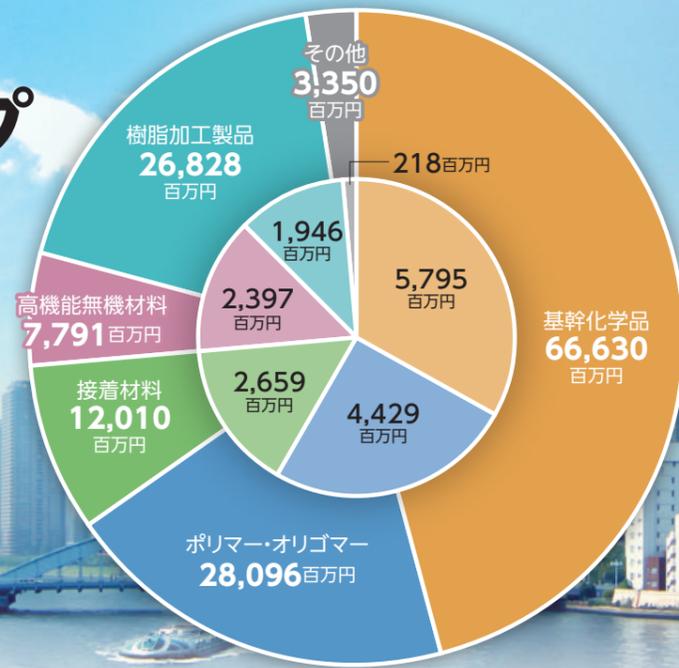


Toagosei America Inc.

# 社会を支える 東亜合成グループ の製品

東亜合成グループの収益構造(2017年)

売上高(外円) **144,708**百万円  
営業利益(内円) **17,446**百万円



## 基幹事業

### 基幹化学品 ▶P.19

#### カセイソーダ

産業における基礎的な原材料として、化学繊維、紙・パルプ、化学薬品など様々な用途に幅広く使用されています。



#### 次亜塩素酸ソーダ

上下水道やプールの滅菌などに使用され、不純物である塩素酸や臭素酸を抑えた製品で安心、安全な水の提供を支えています。



#### アクリルモノマー

アクリル酸は吸水性樹脂や凝集剤に、アクリル酸エステルはテープなどの粘着剤や塗料基材として使用されています。



#### 工業用ガス

酸素、窒素、アルゴンなど多種にわたる産業ガスを取り扱っています。これらの製品は、鉄鋼・化学工業などの基幹産業から半導体製造や医療分野などの先端産業まで幅広いニーズに対応しています。



### 樹脂加工製品 ▶P.27

#### 塩化ビニル製マス、マンホール蓋

街のあらゆる施設の排水に効果的な管路システムを提案し、暮らしを支えるライフライン構築に貢献しています。



#### 建材製品

アクリルゴムでできた塗膜防水材料で屋根や外壁を雨水の浸入から守り、建物の長寿命化とトータルメンテナンスに貢献しています。



#### 介護用品「安寿」

高齢化社会に対応し、介護の現場や日常生活に適した製品開発を行い、豊かで快適な暮らしの実現に貢献しています。



#### エラストマー

ゴムに近い弾性を持ち、汎用プラスチック並みの容易さで成形できる素材の特徴から、さまざまな製品となって暮らしのシーンを彩っています。



### ポリマー・オリゴマー ▶P.21

#### ポリマー アクリルポリマー

分散や増粘など多彩な機能を有する製品を取り揃え、化粧品やトイレタリー製品など様々な分野で使用されています。



#### 高分子凝集剤 「アロンブロック®」

汚水処理用の薬剤で、下水処理場はもちろん、製紙、食品加工といった工場排水の分野でも幅広く使用されています。



#### オリゴマー 光硬化型樹脂「アロニックス®」

塗料やインキ、接着剤から電子材料まで、さまざまな分野で使用されています。有機溶剤を使用しない、環境に配慮した製品です。



### 接着材料 ▶P.23

#### 瞬間接着剤 「アロンアルファ®」

幅広い品揃えでお客さまの多様なニーズにお応えする瞬間接着剤のトップブランドです。有機溶剤を含まない、環境に配慮した接着剤です。



#### 機能性接着剤

産業用として反応型、ホットメルト型、光硬化型など各種接着剤を幅広く取り揃えています。自動車部材や電子部材の組立て等で幅広く使用されています。



#### SQシリーズ

放射線、紫外線などへの耐性を高めたコーティング材料で、宇宙機の日の丸マーク保護に用いられるなど、宇宙用材料の長寿命化に貢献しています。



### 高機能無機材料 ▶P.25

#### 高純度無機薬品

シリコンウエハーや半導体の製造などに使われる液化塩化水素をはじめ先端分野で不可欠な製品です。



#### 無機系抗菌剤 「ノバロン®」

広範囲の細菌に抗菌効果を発揮します。抗ウイルス効果もあり、快適で清潔な暮らしに貢献しています。



#### 無機系消臭剤 「ケスモン®」

トイレタリー、衣類、自動車室内等多様なシーンで消臭機能を発揮します。化学反応により臭い成分を吸着するため、悪臭の再放出を防ぎます。



成長戦略の中核を担う事業

# 財務・非財務ハイライト

## 財務データ

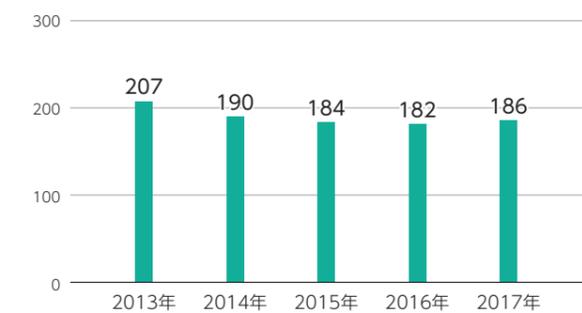
		第95期 2007 (平成19年12月)	第96期 2008 (平成20年12月)	第97期 2009 (平成21年12月)	第98期 2010 (平成22年12月)	第99期 2011 (平成23年12月)	第100期 2012 (平成24年12月)	第101期 2013 (平成25年12月)	第102期 2014 (平成26年12月)	第103期 2015 (平成27年12月)	第104期 2016 (平成28年12月)	第105期 2017 (平成29年12月)
<b>主な経営成績</b>												
売上高	(百万円)	162,729	162,615	140,033	153,779	153,007	148,203	151,081	148,912	139,848	135,382	144,708
営業利益	(百万円)	12,719	11,668	11,158	21,271	17,338	14,583	14,501	12,015	12,347	16,147	17,453
経常利益	(百万円)	13,462	11,057	11,538	20,941	17,569	15,250	15,346	12,892	13,201	16,935	18,492
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	6,403	1,895	3,541	13,133	13,000	9,699	9,605	8,414	6,696	13,801	12,911
純資産額	(百万円)	118,939	113,048	113,700	125,027	127,776	136,240	148,148	157,349	163,020	173,003	187,487
総資産額	(百万円)	182,681	172,464	161,609	173,847	171,046	181,451	193,086	201,168	208,018	219,520	239,338
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	15,651	13,280	22,701	24,843	17,828	23,293	18,023	16,098	23,313	21,989	15,166
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△4,209	△8,776	△6,174	△10,155	△9,041	△15,041	△6,852	△13,981	△4,592	△17,673	△23,186
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△15,894	△4,057	△13,992	△4,117	△7,320	△3,377	△2,094	△3,063	△3,949	△3,939	△4,047
<b>主な指標</b>												
1株当たり純資産(※1)	(円)	807.02	761.96	788.06	874.34	939.23	1,001.99	1,090.91	1,159.65	1,201.46	1,276.10	1,387.36
1株当たり当期純利益(※1)	(円)	49.04	14.54	27.70	104.10	101.99	73.58	72.88	63.88	50.86	104.83	98.08
自己資本比率	(%)	57.7	57.6	61.5	63.4	72.4	72.8	74.4	75.9	76.0	76.5	76.3
ROE(自己資本当期純利益率)	(%)	6.1	1.9	3.6	12.5	11.1	7.6	7.0	5.7	4.3	8.5	7.4
総資産経常利益率	(%)	7.1	6.2	6.9	12.5	10.2	8.7	8.2	6.5	6.4	7.9	8.1
株価収益率	(倍)	14.5	36.9	25.2	7.3	6.2	9.2	12.3	15.0	20.5	11.0	14.6
<b>その他指標</b>												
設備投資費	(億円)	69	67	59	103	104	128	74	78	58	51	100
試験研究費	(億円)	48	48	45	45	46	44	38	39	37	36	37
有利子負債	(億円)	265	255	157	135	125	122	131	132	126	123	121
配当金(※2)	(円)	8.00	8.00	6.00	9.00	10.00	10.00	10.00	12.00	18.00	26.00	26.00
配当性向	(%)	32.6	110.0	43.3	17.3	19.6	27.2	27.4	37.6	47.2	24.8	26.5
従業員数	(名)	2,552	2,617	2,561	2,533	2,534	2,509	2,483	2,442	2,441	2,411	2,393

※1 2015年7月1日付で2株につき1株の割合で株式併合を行いました。1株当たり純資産および1株当たり当期純利益は第95期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、算定しています。

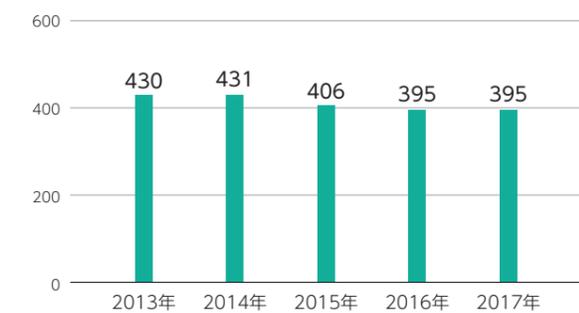
※2 第103期の1株当たり配当金18.00円は、中間配当金6.00円と期末配当金12.00円の合計となります。なお、2015年7月1日付で2株につき1株の割合で株式併合を行いましたので、中間配当金6.00円は株式併合前の配当金、期末配当金12.00円は株式併合後の配当金となります。

## 非財務データ

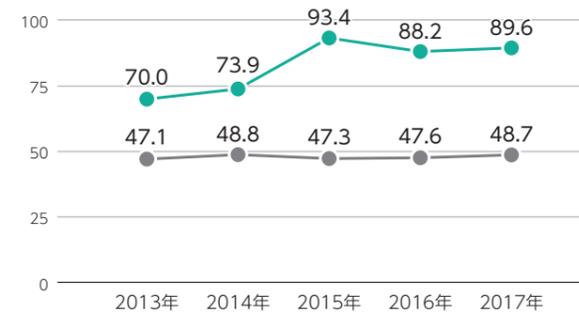
エネルギー使用量 (原油換算 千kℓ)



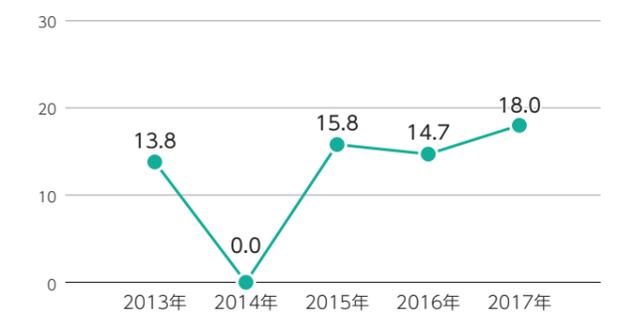
CO<sub>2</sub>排出量 (各年度の係数換算 千トン)



有給休暇取得率 (%) ●当社取得率(連結) ●全国平均取得率



女性社員採用比率 (%)





代表取締役社長  
高村美己志

トップコミットメント

**化学の力で新たな価値を創造し、  
持続可能な社会の実現に  
貢献します。**

2017年を振り返って

**2017年1月にスタートした中期経営計画、  
その成果が現れ始めた  
と手応えを感じています。**

東亜合成グループは、長年にわたり高付加価値製品のウエイトを高める戦略に力を注いでいます。研究開発面では、2011年に相次いで開設した東亜合成の「R&D総合センター」とアロン化成の「ものづくりセンター」で積み上げてきた成果が形となって現れ始め、高付加価値製品を伸ばさせる取り組みがグループ全体にしっかりと根付いてきたと感じています。昨年スタートした中期経営計画「成長への軌道2019」では、当社の事業を「成長戦略の中核を担う事業」と「経営基盤を支える事業」に分類し、組織を再編しました。成長戦略の中核を担う高付加価値製品は「ポリマー・オリゴマー」、「接着材料」、「高機能無機材料」の3つの事業ユニットに分け、それぞれの戦略を明確にしました。これにより多方面にわたるユーザーとの連携を深め、次の手を打ち出しやすくするという意味でも非常に成功した施策だと思っています。

2017年の化学業界を俯瞰すると、化学製品全般に需給がひっ迫するとともに、エレクトロニクスや自動車関連製品の需要は好調でした。この結果、当社グループの業績も、連結売上高144,708百万円、営業利益17,453百万円、売上高営業利益率12.1%となり2016年の実績を上回ることができました。

**高付加価値製品では、  
アクリル川下製品や機能性接着剤、  
半導体用高純度無機薬品が伸長しました。**

当社では、アクリルポリマーなどのアクリル川下製

品や接着材料、半導体の洗浄に使用される高純度無機薬品など高付加価値製品を強化しています。スマートフォンなど高機能情報端末向けの接着剤は、需要の拡大とともにコンスタントに数量を伸ばしてきました。一方、半導体関連の高純度無機薬品は、一時伸び悩んでいましたが、データセンターや車載用センサーなど半導体市場の成長が新たなサイクルに入り急速に拡大する中、需要は大きく伸びています。

先端技術分野において、素材や化学製品はその存在感を増しています。たとえば、半導体分野では微細化や高集積化が進んでいますが、そこで使用される一つひとつの原材料の良し悪しが半導体製品の品質に、直接、影響してきます。このため、半導体メーカーは、より上流のサプライヤーに廻り、確かな品質のものを、安定して供給できるかどうかを見極めてきます。当社は、当社製品の性能や品質だけでなく、その分析技術や容器管理を含めた物流などサプライチェーン全体の付加価値に磨きをかけています。それが結果として、当社だけでなく、お客様にとっての強みにつながるものと考えています。

**汎用製品については、  
安全・安定供給という社会的責任を  
果たすために事業構造改革を推進しています。**

当社が製造している電解製品には、紙・パルプの製造などに使われるカセイソーダ、上下水道の殺菌、消毒に欠かせない次亜塩素酸ソーダなどがあり、これらは産業や社会の基盤を担う製品であることから、安全かつ安定して供給する責任があります。一方、こうした汎用製品の多くは設備老朽化の問題を抱えており、設備の維持、保全にかかる費用も少なくなく、生産性も必ずしも高くありません。当社では、将来を見据えこれら

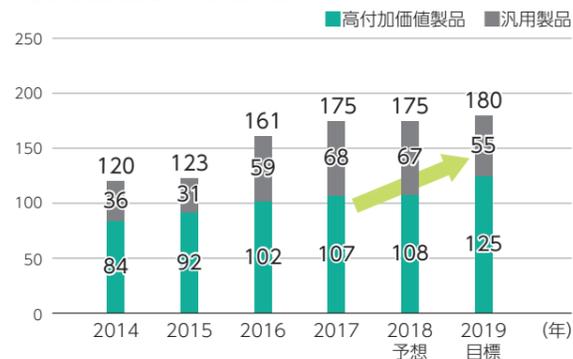
の問題に対応するため、昨年、カセイカリの生産ラインをリニューアルし、最新鋭の技術を導入することで、安全・安定供給体制とコスト競争力の強化を実現しました。またアロン化成においては、管工機材製品の生産体制再構築を進めています。今後とも、注力する製品や取り組むべき課題を見極め、経営基盤を支える基幹製品の競争力強化を進めていきます。

価値創造に向けた取り組み

当社グループの強みを活かして、「さすが東亜合成」と言っただけの製品開発をめざします。

当社は、1960年、接着剤や塗料の原料となるアクリル酸エステルの工業化に日本で初めて成功しました。1963年に工業用に製造を開始した「アロンアルファ®」は、その後、家庭用として日本、米国や香港市場で販売し、ロングセラーを続けています。この間、一般のお客さまのニーズを汲み取ることで製品は変化—当社では“進化”と呼んでいます—をしています。また、社会の環境意識の高まりを受けて登場した「アロニックス®」は、環境への負荷が大きい溶剤などを使用せず、光で硬化できる樹脂として、電子部品の接着や半

高付加価値製品と汎用製品の営業利益 (億円)



導体のレジスト材料などに使用されています。川上から川下までにわたる製品を有し、きめ細かく取り組めることは当社グループの強みの一つです。たとえば新たな接着剤や粘着剤を開発するにしても、単に配合を変えるだけでなく、原料のモノマーまで遡り、合成技術や重合技術を駆使して、それまで世の中になかったものを生み出すことができるメーカーです。私たちは、ユーザーや社会から「さすが東亜合成」と言っただけの製品づくりに注力しています。

海外事業展開を加速し、グローバルなニーズに応えていきます。

当社は、2017年5月、トウアゴウセイ・タイランドにおける第1期プロジェクトとしてアクリルポリマー工場の建設を開始し、2018年6月の操業開始を予定しています。さらに第2期プロジェクトとしてアロン化成の製品であるエラストマーを生産することを決めました。いずれのプロジェクトも、ユーザーである日系企業の進出に伴い現地でのニーズにスピーディに対応するとともに、成長するアジア市場で活躍の場を広げていくことを目的にしたものです。まずは第1期工事を確実に仕上げていくことで、製造面だけでなく、営業やマーケティングなどにおいてもノウハウの蓄積に努め、現地に根付いた事業基盤の確立に注力していきます。

人財の採用・育成とともに、働き方改革やダイバーシティを推進していきます。

企業の持続的発展の源泉は「人」です。特に、ユーザーと開発の方向性を考えていく開発営業を強化していく必要があると考えています。当社グループが求

めるのは、文系、理系を問わず、自分の頭で考えることのできる人財です。たとえば入社の際のエントリーシートが自分の言葉で書かれているか、また、何かに挑戦して上手くいかなかった時に、どのようにして乗り越えてきたのか、そういったことについて会話をしながら人財のポテンシャルを見極めていきます。さらに入社後も、オン・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)はもちろんのこと、教育研修制度や自己啓発のためのシステムを充実させています。

働き方改革についても積極的に取り組んでいます。当社グループの有給休暇取得率は90%程度と高い水準にありますが、さらなるワークライフバランス(仕事と生活の調和)の充実を図るため、2018年1月人事部に健康経営推進課を設け、多様な人財が生き生きと働くことができる職場環境の整備を進めています。また女性の活躍推進については、女性活躍推進法に基づき女性採用比率や女性管理職比率の数値目標を設定し、行動計画を実行しています。

オフィスの生産性向上に向けて、徹底した業務改革を推進します。

日本のオフィスの生産性は、先進7カ国中で最下位とされています。当社は経営状態が厳しかった2000年に経営改革を断行し、間接部門に係わる人員の比率を低下させてきましたが、さらなる効率化に向けて、関係会社を含むグループ全体の工場、支店の経理や人事、購買関係などの事務業務が、どこに、どのように存在し、どのような仕事でどれだけの時間が取られているかについて調査を行いました。その調査結果に基づき、これらの仕事を吸い上げて集中化することによって業務の標準化を図り、より少ない人数で効率的に仕事を行うために、事務作業の多くをグループ会社の東亞

ビジネスアソシエに集約することにしました。この体制は2018年1月にスタートしており、オフィス業務をはじめとした間接部門の生産性向上に大きく貢献すると期待しています。

創立75周年を越えて、その先へ

第4の柱の構築に向けて、現状からの飛躍を図っていきます。

当社は、2019年に創立75周年を迎えます。これまでの歩みを振り返りますと、戦前、戦中期にカセイソーダやアンモニアなどの基礎化学製品事業への展開期を第1期とし、高度経済成長期にはアクリル酸エステルや塩化ビニル樹脂など石油化学製品に進出し第2の発展期を迎えました。その後、アロンアルファやアロニックスなどに代表される機能製品の開発に注力し、現在もその第3期にいます(3~4ページ参照)。中計「成長への軌道2019」で2025年のグループビジョン(17ページ参照)を掲げましたが、さらにその先を見据えるならば、将来の当社グループを支える第4期の柱となる新たな製品や技術が不可欠です。現在取り組んでいる高付加価値化路線の果実として次代の柱となりうる製品や技術を生み出し、それらを武器に海外市場に果敢に打って出ることがまずやるべきことですが、さらにもう一段の飛躍が必要ではないかと考えています。今ある製品や技術を深掘りしフィルムやシートなど、より加工度を高めた分野への展開、国内外におけるM&Aを含む他社との連携拡大など、様々な側面からの可能性が考えられます。第4の柱がどのようなものになるのかは後の歴史が証明することになるのですが、「あの第4の柱があったから東亜合成グループは発展した」と言えるように、すこしでも早く具体的な姿が見えるよう努力しています。

より多くの人々とより多くの幸福を分かち合うために

化学の存在意義をアピールできる時代が、  
ようやく来たと感じています。

世界を変える2030年までの17の目標としてSDGs（持続可能な開発目標）が国連サミットで採択されました。これまで化学会社といえば、高度経済成長には貢献したものの、一方で公害を引き起こしたという負のイメージがありました。そういった負のイメージを払拭するために、廃棄物や排出量の削減、化学物質の適切な管理などを推進し、環境保全技術では世界をリードするまでの成果を上げています。しかし、化学会社の本来の使命としては、本業から生み出される製品や技術、サービスによって社会に貢献したいとの思いが強

くあります。たとえば、SDGsの一つに「安全な水とトイレを世界中に」という目標がありますが、東亜合成グループの事業は、その源流から「水」との親和性があります。祖業である電解事業では、カセイソーダと塩素を原料とする次亜塩素酸ソーダが生産され、飲料水の殺菌やプールの除菌などに使用されています。アクリルの川下製品である高分子凝集剤「アロンブロック®」は污水处理の分野で必要不可欠な薬剤となっています。またアロン化成の塩化ビニル製管工機材製品は上下水道のインフラを支えており、ポータブルトイレなどの排泄介護用品は快適な生活環境の提供に貢献しています。自分たちの仕事が、社会の役に立ち、世界を良くするためのゴールにつながっていることを、もっと社内外にアピールしていくべき時代が、ようやく来

たのだと私は感じています。

人々が感動する製品に使われる、  
いい材料を作る会社であり続けます。

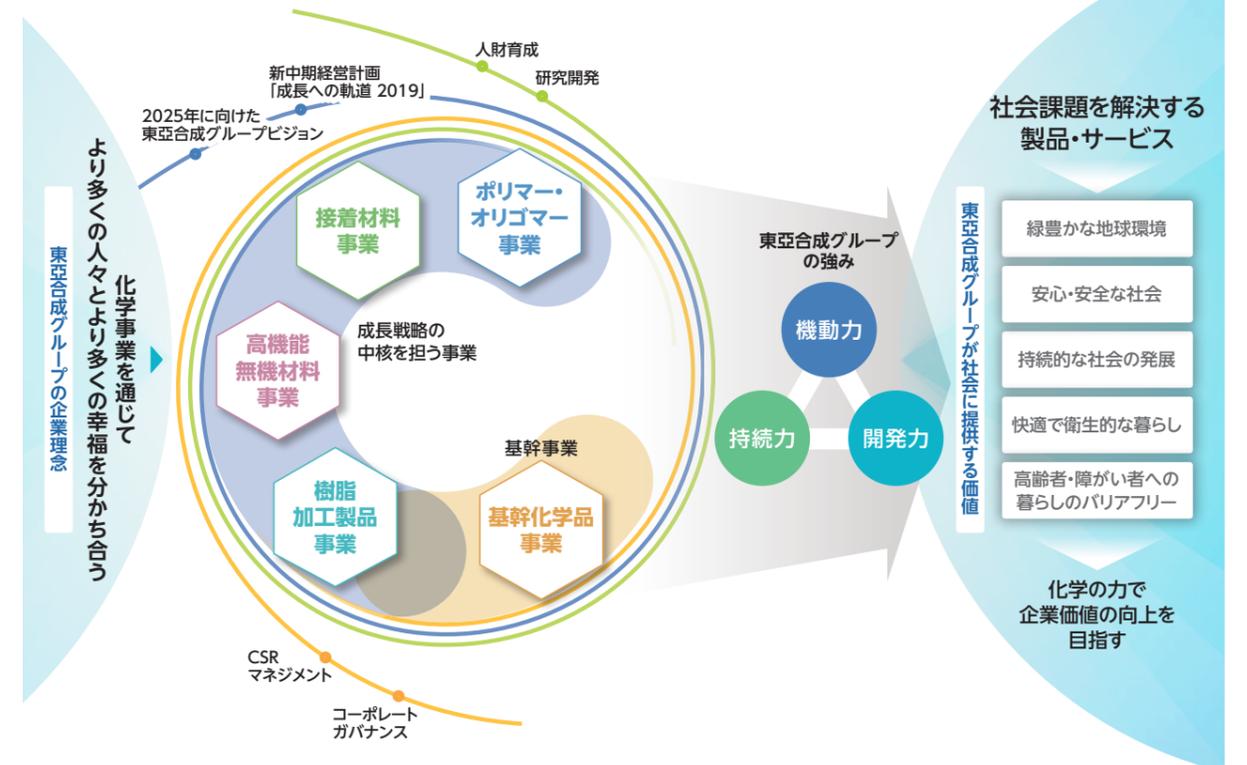
半導体、電化製品、自動車、日用品など、さまざまな分野でグローバル競争力のある製品が求められるようになってきました。幸いなことに日本の化学業界は、グローバル競争力のある製品を提供し続けることができ、その勢いを途切らせることがあってはならないと思っています。日本の化学は、日本の産業の未来の繁栄をもたらす鍵となります。私たちがいい材料を作り、ユーザーがいい製品を作り、やがてエンドユーザーが「こんなにいいものができたのだね」と感動した

とき、「その材料を作ったのは私たちです」と言えるような、自社においても、またユーザーや社会に対しても誇れる会社でありたいと思っています。

私たちは、化学的な性質を変えて根本的に新しいものを作ることで社会に貢献してきましたが、このような製品を生み出すには、長い時間が必要です。ESG（環境、社会、ガバナンス）投資が拡大し、長期的な視点を持つ投資家の方々が増えてきたことは、私たちにとっても追い風になります。株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまには、当社グループへのご理解を深めていただき、継続的なご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



東亜合成グループの価値創造ストーリー



特集

# 中期経営計画「成長への軌道2019」の進捗について

# 2025年

「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」との企業理念のもと、新製品・新事業の創出による持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

中期経営計画基本方針

## 2025年に向けた東亜合成グループビジョン

- 技術と高付加価値製品で存在感のある化学企業グループ
- 国内外で生産販売活動を展開している  
海外売上高比率25%以上の化学企業グループ
- 事業拡大を担う優秀で意欲的な社員を豊富に擁する化学企業グループ
- 安定した収益基盤を有する  
売上高2,000億円以上の化学企業グループ

実現のための1stステップ

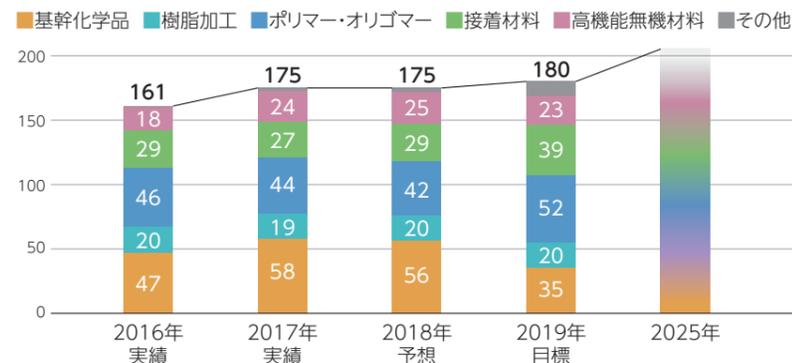
## 中期経営計画「成長への軌道2019」

2019年目標

売上高	1,550億円
営業利益	180億円
営業利益率	11.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	125億円

※ 2019年目標の前提条件:ナフサ価格32,000円/kl、為替105円/USD

セグメント別営業利益推移 (単位:億円)



事業ユニットと主な戦略

経営基盤を支える事業	成長戦略の中核を担う事業		
<p><b>基幹化学品</b></p> <p><b>電解製品</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産設備を更新し、生産体制を強化。</li> </ul> <p><b>アクリルモノマー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内の稼働率向上とシンガポール事業の構造改革を実施。</li> </ul> <p><b>樹脂加工製品(アロン化成)</b></p> <p><b>管工機材</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3工場の生産体制を最適化するとともに、災害対応・公共インフラを重点分野として、新製品を投入。</li> </ul>	<p><b>ポリマー・オリゴマー</b></p> <p><b>アクリルポリマー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トウアゴウセイ・タイランドでの第1期としてアクリルポリマー事業立ち上げ(2018年生産開始)、現地マーケティング体制を強化するとともに、第2期事業計画を具体化。</li> </ul> <p><b>オリゴマー(アロニックス®)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内外の3拠点(日本・中国・台湾)を一体で運営し、新製品の相互展開とM&amp;Aを視野に拡大を図る。</li> </ul>	<p><b>接着材料</b></p> <p><b>機能性接着剤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子部品・自動車・電池の分野を重点に、新製品開発を推進。</li> </ul> <p><b>瞬間接着剤</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日米両国において、広告宣伝、新製品上市、販売活動強化によるブランド戦略を強化し、マーケットシェアを拡大。</li> </ul> <p><b>高機能無機材料</b></p> <p><b>高純度無機化学品・無機機能材料</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新製品開発を進めるとともに、東南アジア・中国・台湾・韓国・米国への拡販体制を強化。</li> </ul>	<p><b>樹脂加工製品(アロン化成)</b></p> <p><b>建材・土布</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>東亜合成とアロン化成が連携し、販売力を強化。</li> </ul> <p><b>ライフサポート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護用新製品を継続的に市場投入し、中国市場にも展開。</li> </ul> <p><b>エラストマー</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新機能を付与した製品を上市し品揃えを拡大。東南アジアでの生産・販売体制も具体化。</li> </ul>

## 2017年振り返り

経営基盤を支える事業の強化

### 省エネ カセイカリ電解槽が新たにスタート

- 世界トップレベルのカセイカリ電解技術をコンセプトに高効率設備を実現。
- 半導体洗浄向け高純度品など、顧客の高品質化ニーズへの対応力が大幅にアップ。



17年11月 新設備 通電の様子

### アロン化成の管材事業を担う新設備が2018年春 始動

- 管材の製造拠点3工場を集約・再編。最新鋭の射出(金型)成形設備と押出成形設備を名古屋に新設。生産ラインの見直しや最適化により生産効率化を進め、事業基盤を強化。



アロン化成名古屋工場 新製造建屋

成長戦略の中核を担う事業の拡大

### トウアゴウセイ・タイランド・プロジェクト

第1期プロジェクト

- アクリルポリマー工場建設中
- 生産品目 化粧品材料など  
操業開始 2018年6月



アクリルポリマー用途例

第2期プロジェクト

- エラストマー工場・販売拠点新設決定
- 生産品目 スチレン系各種エラストマー家電・自動車・食品・雑貨等の分野でマーケティングを展開中  
工事着工 2018年下期(予定)  
操業予定 2019年年内(予定)



急ピッチで建設が進む タイ新工場



エラストマー用途例

## 2018年以降の取り組み

### 車載用製品群の拡販

ガラス代替樹脂や異素材接着剤、電子部品用材料、リチウムイオン電池用部材など、車両の軽量化や電装化へのユーザーニーズを掘み、スピーディーな製品開発を展開。

### 化粧品原料事業の育成

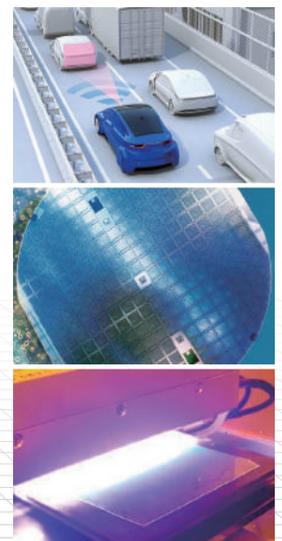
当社の技術を生かし、機能性ポリマーで化粧品関連市場に本格展開。

### 半導体用高機能製品群の強化

液化塩化水素等の高機能無機製品は、トップメーカーとして、高品位化と安定供給の市場ニーズに応える。IC封止材のイオンキャッチャー、SiウエハーのCMPなど精密製品を強化。

### 更なる川下への展開

粘・接着剤のフィルム・シート加工ビジネスを加速。素材開発とのシナジーを図る。



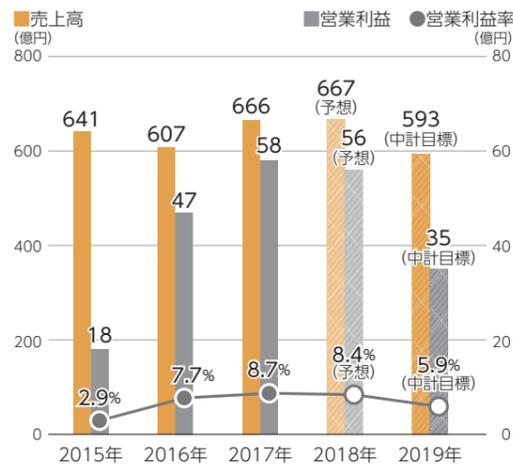
事業概況と  
成長戦略

# 基幹化学品事業

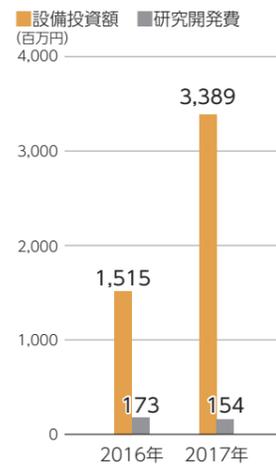


執行役員  
基幹化学品事業部長  
古川 史人

セグメント別売上高・営業利益推移



設備投資額・研究開発費



## 事業の概要

無機化学品事業は、東亜合成の幅広い事業の中でも最も歴史のある事業です。カセイソーダ、塩素、次亜塩素酸ソーダ、各種塩化物、硫酸や工業用ガスなどは、化学製品の原材料としてはもちろん、多種多様な分野で必要不可欠な製品として人々の暮らしに貢献しています。

アクリル事業は東亜合成グループのコア事業の一つで、川上から川下まで一貫した製品群によるアクリルチェーンを築いています。その起点となるアクリルモノマーは確かな品質とコスト競争力により、川下であるポリマー、オリゴマー等の誘導品の事業拡大を支えています。



名古屋工場アクリル酸エステルプラント

## Topics

### ハラール製品の認証を取得

カセイソーダや次亜塩素酸ソーダなど名古屋工場で製造する無機工業薬品8製品で、宗教法人日本ムスリム協会から、ハラール製品の認証を取得しました。



### カセイカリ電解設備を更新

カセイカリの安定供給と更なる競争力強化のため老朽化していた電解設備を最新設備へ更新しました。近年伸びている高純度品を含め最適な生産体制の構築を目指します。



## 中長期的な成長戦略

ライフラインや産業基盤を支える基幹事業として、継続的な設備投資や生産性の改善に取り組み、安全で安定した製品の供給を行います。

## 電解事業

収益の維持・拡大に向けた投資を積極的に行い、安定的かつ効率的な生産とコスト競争力の強化を図っています。2013年には、従来比3割減の省電力技術であるガス拡散電極法の商業電解槽を日本で初めて徳島工場へ導入しました。2016年には、日本水道協会(JWWA)の定める「品質特級」規格を満たす次亜塩素酸ソーダの製造設備を徳島工場に設置したほか、2017年はカセイカリの電解設備のリニューアルを実施しました。



カセイソーダや硫酸は紙・パルプ等の生産に、次亜塩素酸ソーダは上下水道の減菌に使用されています。

## アクリルモノマー事業

2014年にアクリル川下製品の中長期的な需要拡大への備えとコスト競争力の強化のため、大分ケミカルでアクリル酸8万トンの新設備を立ち上げました。また、シンガポール拠点を含めた国内外の生産・販売における新たなビジネススキームの構築に努め、更なる収益力向上に取り組んでいます。



アクリル酸は吸水性樹脂や増粘剤の原料に、アクリル酸エステルはテープ粘着剤や塗料の原料に使用されています。

## 工業用ガス事業

中部、北陸地区を中心に産業ガスの販売を強化し、生産基地の稼働を高めることで効率的な生産体制を確立すべく、積極的に事業拡大を進めてきました。また、将来に向け安定した生産活動を維持するための大型の設備投資も計画、実行しています。

## 社会的課題解決への挑戦

# 地球温暖化防止

### 社会的課題

地球規模で進む温暖化の対策として、温暖化ガスである二酸化炭素の排出量抑制は世界に共通する課題です。排出元の一つである自動車では、二酸化炭素の排出量が少ないハイブリッド車や電気自動車が、ガソリン・ディーゼル車に変わる地球環境にやさしい新しい車として普及拡大が期待されています。

### 当社グループの取り組み

ハイブリッド車や電気自動車の普及に伴い、その性能のカギを握る高性能なリチウムイオン2次電池の重要性はますます高まっています。当社は、このリチウムイオン2次電池の電解液の原料である精製エチレンカーボネートを製造しています。エチレンカーボネートは当初繊維の加工処理剤や土壌改良剤として主に使用されていましたが、1990年代末頃からパソコンや携帯電話用のリチウムイオン2次電池用電解液として使用され、注目を浴びるようになりました。近年は電気自動車、ハイブリッド車向けが増加しており、2010年に三井化学との合併会社「MTエチレンカーボネート」を設立し、伸長する需要への対応を進めています。



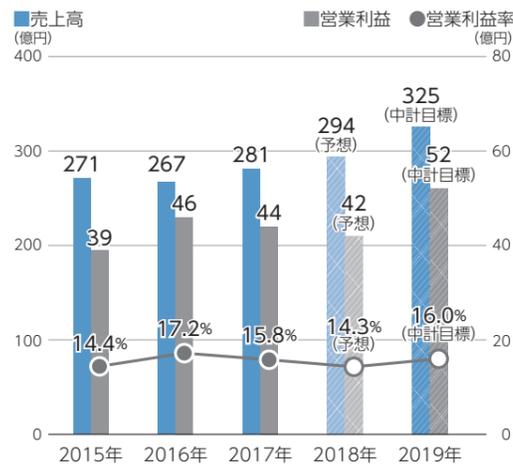
事業概況と成長戦略

# ポリマー・オリゴマー事業

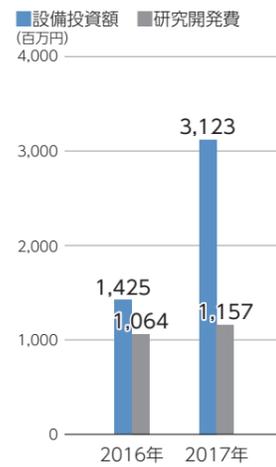


執行役員  
ポリマー・オリゴマー事業部長  
小淵 秀範

セグメント別売上高・営業利益推移



設備投資額・研究開発費



## 事業の概要

アクリルポリマーは、アクリル酸やアクリル酸エステルをベースに、分子量や共重合組成の幅広い組み合わせで生み出された多くの製品群によって構成されています。分散剤、増粘剤、ゲル化剤、凝集剤、粘着剤、コーティング剤などの様々な分野で社会に貢献しています。さらに独自の技術により開発した、グラフトポリマー「サイマック®」「レゼダ®」、無溶剤型ポリマー「アルフォン®」、高機能粉体製品などの幅広い製品をラインアップしています。

光硬化型樹脂は、アクリル系特殊モノマー・オリゴマーの「アロニックス®」とカチオン硬化系の「アロンオキセタン®」を展開しています。これらは紫外線照射により短時間で硬化でき、無溶剤で使用できるため乾燥工程が不要です。生産性向上、省エネルギー化、低環境負荷といった多くの優れた特長を活かし、接着剤、インキ・塗料・ディスプレイ用材料などの分野で幅広く使用されています。



印刷物から電子材料まで幅広い分野で使われている光硬化型樹脂「アロニックス®」

## Topics

### 化粧品用の吸水性球状パウダー

吸水性素材をマイクロレベルで粒径制御する技術により、しわ隠しや高い保湿性を発揮する高機能性球状パウダーを開発。スキンケア商品やジェル用美容液など、化粧品分野での展開が期待されています。(31~32ページ参照)



### ガラス代替樹脂シート

アロニックス配合技術と重合制御技術を融合させ、透明で美しく、強靭性を有するガラス代替樹脂を開発。優れた光学性能や耐熱性、耐擦傷性といった特長を活かし、車載分野やウェアラブル分野での開発が進んでいます。



## 中長期的な成長戦略

アクリル川下領域での高付加価値製品の拡大、優れたシーズ技術をベースとした新規事業創出、及び海外事業拡大を目指します。

## ポリマー事業

新規開発を積極的に行い、水溶性ポリマーや高機能粉体製品を中心に国内外での事業拡大を図ります。特に建設中のトウアゴウセイ・タイランドをアジアの中核拠点と位置づけ、高機能・高付加価値製品のアジア展開を推進します。また高機能粉体事業を事業の柱とすべく、自動車関連や化粧品分野を中心に開発を進めています。



化粧品やエコカーなどにも使用されているポリマー製品

## オリゴマー (光硬化型樹脂) 事業

汎用品の競争力強化とともに、新製法による差別化製品やUV配合品を軸に事業拡大を目指します。また、台湾の台湾東亜合成と東昌化学、中国の張家港東亜迪愛生化学は、現地での技術開発力を高め、現地および周辺国への販売を拡大し、一層の地産地消体制を推進します。



張家港東亜迪愛生化学



電子基板のレジストなどにも使用されているアロニックス®

## 凝集剤事業

当社グループのMTアクアポリマー株式会社は、高品質の高分子凝集剤「アロンブロック®」の製造・販売を行っています。多種多様化する廃水、汚泥の浄化に優れた製品と適切なソリューションを提供しています。特に含水率低減によるCO<sub>2</sub>削減など環境対応のニーズに着目した高機能グレードを開発することで社会に貢献しています。

## 社会的課題解決への挑戦

# 人と地球に優しい製品の開発

### 社会的課題

昨今の持続可能な社会実現に向けた取り組みの一つとしてインフラの改善があります。土木分野に加え建築分野においても長期優良住宅の普及に関する法律により、住宅の品質向上への取り組みが行われており、樹脂製品・コンクリート・木質建材の環境対応や高耐久化に対するお客様のニーズが高まっています。

### 当社グループの取り組み

「アルフォン®」は、UFO (Uniform Functional Oligomer) 技術から得られる環境に優しい無溶剤アクリルポリマーです。UFO技術は、高温連続重合により効率的にアクリルポリマーを製造することができ、製品の特長として、様々な製品へ高耐熱・高耐久・物性改質を付与することができます。

長寿命が求められてきている建築用のシーリング剤や接着剤、樹脂改質剤などに幅広く使用され、様々な市場ニーズに貢献しています。



建築用の接着剤やシーリング剤に使用されている「アルフォン®」

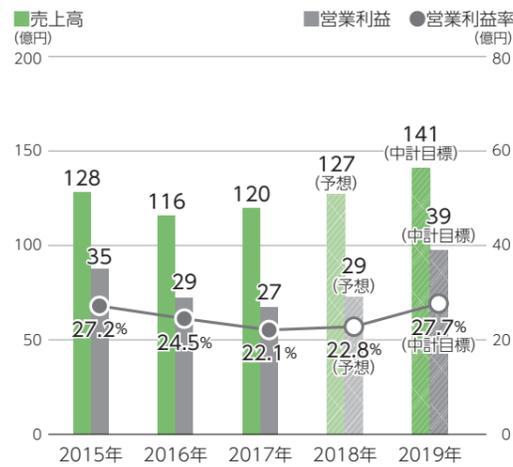
事業概況と  
成長戦略

# 接着材料事業

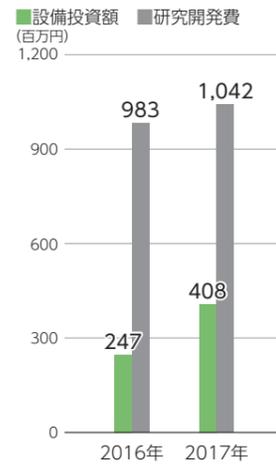


執行役員  
接着材料事業部長  
中谷 隆

## セグメント別売上高・営業利益推移



## 設備投資額・研究開発費



## 事業の概要

接着材料事業部門は、プラスチックや金属・木材・ゴム・革・陶器など、種々の材料との接着をとおしてモノづくりのスピードアップ、コストダウン、新工法にかかわる技術革新に貢献しています。

当事業部門で取り扱う製品は、家庭用瞬間接着剤の代名詞である「アロンアルファ®」や電子材料・自動車・精密機器など工業用接着剤として使用される「アロンマイティ®」、「アロンメルト®」、「アロニックス®」など多彩なニーズにお応えするための機能接着剤を数多く取り揃えています。その他に、粉体塗料「アロンパウダー®」やシルセスキオキサン誘導体「SQシリーズ」など当社独自の技術を生かした製品開発に努めています。

製品の成長と共に私たちの生活をより豊かにする可能性を秘めた事業です。



瞬間接着剤の代名詞「アロンアルファ」をはじめ、幅広い用途にお応えする多彩な製品群

## Topics

### 第1回 接着・接合EXPOに出展

アロンアルファや機能性接着剤などの新製品を紹介しました。来場者は予想をはるかに上回り、当社製品への関心の高さがうかがえました。



### ハイブリッド弾性瞬間接着剤を開発

瞬間接着剤の特長である高速接着性と、これまで実現が難しかった硬化物の柔軟性、耐久性を兼ね備えた製品を開発しました。



## 中長期的な成長戦略

ブランド力強化によるシェアの維持、拡大と成長分野における顧客特化型開発の推進

## 瞬間接着剤事業

ブランド力強化によりシェアを維持、拡大するため、国内外で広告活動と新商品の投入を積極的に行います。また、新たな市場ニーズを取り込むため、接着剤のみならず、容器開発や販路の拡大を強化していきます。



- アロンアルファ容器・台紙リニューアル  
使いやすい容器、製品特長がよりわかりやすいデザインにリニューアルしました。
- アロンアルファEXTRA ミニ×2  
手軽な使い切りタイプの販売を始めました。
- タイでアロンアルファ発売  
タイにて家庭用商品の販売を始めました。

## 機能性接着剤事業

成長分野である、情報通信、モビリティ分野をターゲットに基板材料や電池材料向けなどの製品開発を推進しています。また、2018年4月東京テクノ・ラボを新たに設置し、多様化する市場ニーズへの対応力を強化しています。

- アロンマイティAS-700  
情報通信分野における大容量情報の高速伝送時代に備えた低誘電接着剤を開発しました。
- アロンメルトPPET-1200F  
モビリティ分野をターゲットに金属や樹脂等の異種材料を接合できるフィルム状の接着剤を開発しました。
- SQシリーズ  
シルセスキオキサン骨格にシリコンを導入した耐熱・防汚コーティング剤を開発し、市場開発を開始しました。



## 社会的課題解決への挑戦

# 資源の有効活用

## 社会的課題

資源の枯渇が深刻化し、古くなったものや壊れたものをリサイクルすることや、捨てずに修理して使い続けることが求められています。接着剤は、私達の身の回りの物を修理したり、補強したりすることを可能にし、大切なものを長く使い続けることに役立っています。

## 当社グループの取り組み

当社のロングセラー商品である家庭用瞬間接着剤「アロンアルファ」は、1971年に発売して以来、一部商品に開封時に針を使用する容器を使用してきました。しかし、「子供に針を使用させるのは危険」「開封時に液が飛び散り手にくっつく」「高齢者が針で開封するのは難しい」と言う厳しいご意見をいただき、子供や高齢者が物を直そうとする時の大きな障害となっていることに気付きました。昨年、上市した「一般用アロンアルファ」はこれらの声にお応えする商品です。危険な針をなくし、液を押し出すプッシュ部分を大きくして液量をコントロールしやすくなったことで、安心して使いやすい「アロンアルファ」に生まれ変わりました。

これからも、当社はお客様の声に耳を傾け、「アロンアルファ」を進化させることで、資源の有効活用にご貢献していきます。



針をなくし、液量をコントロールしやすい容器へリニューアル

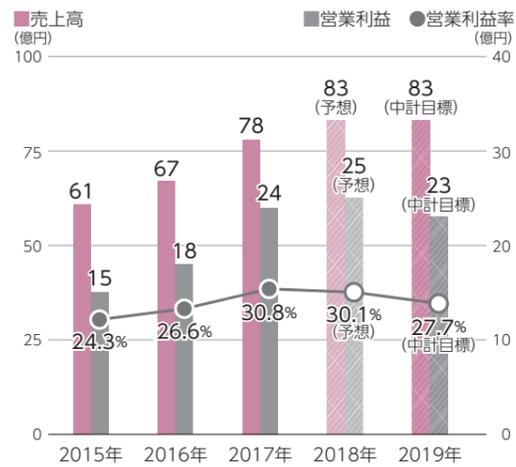
事業概況と  
成長戦略

# 高機能無機材料事業

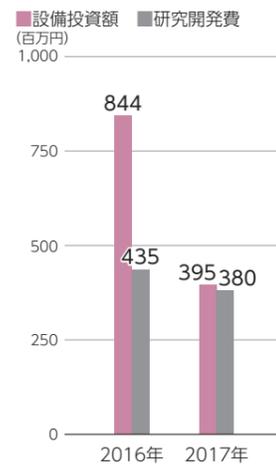


執行役員  
高機能無機材料事業部長  
原 寿

## セグメント別売上高・営業利益推移



## 設備投資額・研究開発費



## 事業の概要

高機能無機材料事業部門は高純度無機と無機機能材料の二つから成り、高機能・無機製品をキーワードとして最先端の電子材料から抗菌・消臭剤といった生活消費材まで幅広い分野をターゲットとしています。高純度無機事業は、純度を極限まで高めた高純度液化塩化水素、高純度カセイカリなどを有し、主に半導体・電子材料分野に供給しています。無機機能材料事業では、不純物イオンを補足し電子部品の信頼性を高める「IXE<sup>®</sup>」、繊維・プラスチックなどの素材に消臭・抗菌などの快適機能を発揮する「ケスモン<sup>®</sup>」「ノバロン<sup>®</sup>」などユニークな製品を取り揃えています。



## Topics

### 横浜工場充填設備のリニューアル

横浜工場の高純度塩化水素充填設備を最新鋭設備にリニューアルし、更なる需要拡大と品質向上に対応しています。



### 「ケスモン<sup>®</sup>」新タイプのラインアップ

近年、消臭剤が活躍するシーンが多様化しています。「ケスモン<sup>®</sup>」は粉末タイプのみならず、液状や不織布等新たな製品をラインアップしています。



## 中長期的な成長戦略

当社グループが強みを持つ無機製品の高純度化と高機能化技術に磨きをかけ、多様なニーズに応えていきます。

## 高純度無機事業

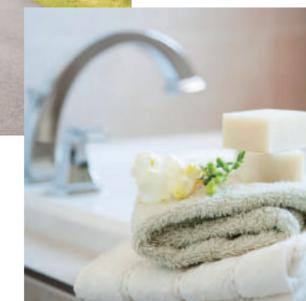
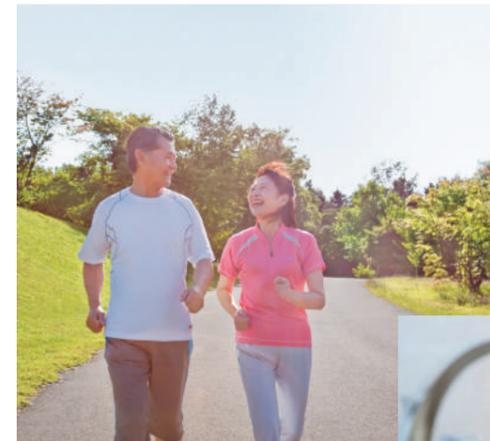
半導体の製造に必要な不可欠な材料である液化塩化水素や六塩化二ケイ素（「HCD<sup>®</sup>」）、電子材料分野で使用される高純度カセイカリ（「スーパーカリEx」）など多様な高純度製品の生産・分析技術を高め、日本市場のみならず海外市場にも展開しています。



HCD容器

## 無機機能材料事業

電子部品の薄膜化に対応するイオン捕捉剤「IXE<sup>®</sup>」、清潔・快適な生活空間を創る消臭剤「ケスモン<sup>®</sup>」、抗菌剤「ノバロン<sup>®</sup>」の展開を拡げています。成長が見込まれるアジア地区は台湾・韓国など海外拠点との連携を強化しています。



## 社会的課題解決への挑戦

# IoT時代への貢献

## 社会的課題

インターネットの普及によってあらゆる物がネットに繋がるIoT時代が到来しています。この変革は、データクラウドといったグローバルなものから、自動運転のような生活に身近なところまで及び、未来の生活を支えていくものになると考えられます。

## 当社グループの取り組み

情報伝達、演算処理、記憶媒体は全てメモリやLSIといった半導体技術の上になりたっています。近年半導体の需要は激増し、扱うデータ量も飛躍的に増加しています。DRAM1チップあたりの容量は2017年には8Gbitに移行し、さらに16Gbitになると言われています。微細化された半導体では、極少量の不純物も障害となるため、使用される薬品は超高純度化が求められます。このような要請に対して、当事業部門では製品の安定供給責任を果たし、更なる高純度化に向けた製造技術の向上、供給・分析体制の構築を進めています。



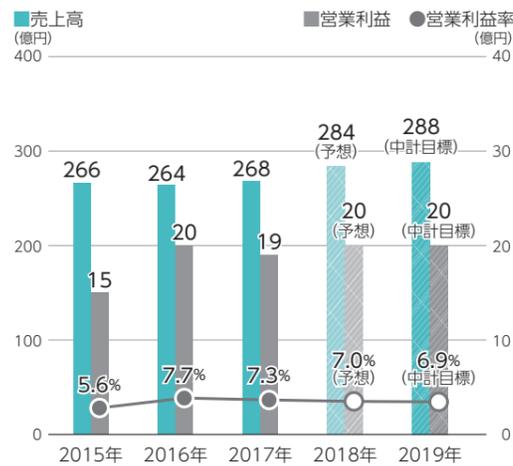
事業概況と成長戦略

# 樹脂加工製品事業

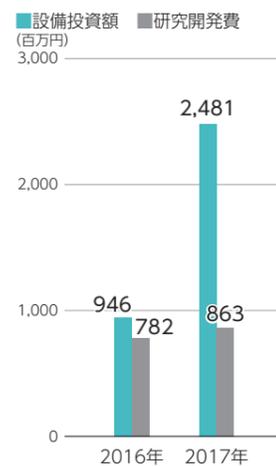


取締役  
アロン化成株式会社代表取締役社長  
杉浦 伸一

## セグメント別売上高・営業利益推移



## 設備投資額・研究開発費



## 事業の概要

アロン化成は、1951年、国内で初めて硬質塩化ビニル管「アロンパイプ」の開発に成功し、継手やマスなど管工機材の分野では、パイオニアとして市場を開拓してきました。また、「安寿」ブランドで、介護用品分野におけるリーディングメーカーとして様々な製品を送り出してきました。さらには、柔軟性に富んだエラストマーを国内外に提供しています。現在は管工機材、建築補修材、介護用品、エラストマーの分野を中心に事業を展開し、プラスチック素材を生かした独創的なものづくりで快適な日常生活の演出からインフラ整備を通じた街づくりまで、活躍の場を広げています。



アロン化成の強み

## Topics

### エラストマーの海外展開

トウアゴウセイ・タイランド内にエラストマーの製造・販売拠点を設立し、伸長するアジア市場へ積極的に展開します。



### 新領域の事業拡大

アクティブシニアをターゲットとした、杖にも椅子にもなる商品「Ta-Da® Chair」の販売を開始し、新領域へのビジネス構築にも注力しています。



## 中長期的な成長戦略

独創的なものづくり力を生かし、グループ内各社と連携を図り、国内外での販売拡大に積極的にチャレンジしています。

### 管工機材事業

管工機材においては、下水道などの主力分野に加え、洪水・浸水対策、地震対策、インフラ老朽化対策を重点分野として開発・製品化に注力し、拡販していきます。建材においては、提案型営業を強化し、一層の拡大を目指します。



### ライフサポート事業

介護者の負担を軽減するために汚物の処理を自動で行う「家具調セレクトR自動ラップ」などの高付加価値製品による既存の介護福祉分野における競争力強化に加え、中国などでの海外販売の強化も行っています。



### エラストマー事業

機能性の高い製品の展開・開発を行い、食品・医療・家電・自動車など様々な分野で採用されています。今後もお客様に密着した開発を行い、高機能エラストマーメーカーとして貢献していきます。



## 社会的課題解決への挑戦

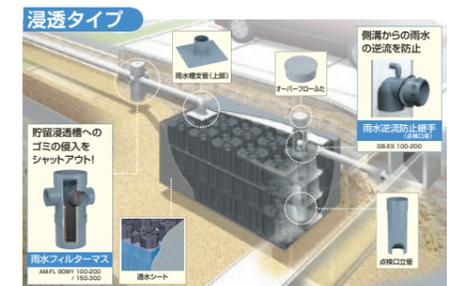
# ゲリラ豪雨への対策

### 社会的課題

「ゲリラ豪雨」と呼ばれる集中豪雨が頻発し、各地で浸水被害が起きています。背景としては都市化による雨水の流出増加があげられ、地域の開発と河川改修を一体として考える総合治水の一環として、河川部だけでなく流域一帯で面的な治水対策を行う「流域対策」の必要性が高まっています。

### 当社グループの取り組み

浸水被害を防止するための流域対策として「分散型雨水貯留浸透システム」を提案しています。「分散型雨水貯留浸透システム」では下図にあるように、駐車場の下などに箱状の構造体を積み重ねた貯留浸透槽を埋設することで敷地内に降った雨水を一時的に貯めることができます。また、貯留浸透槽に貯まった雨水を徐々に効率よく地中に浸透させて雨水管への流量を調整し、河川への過度な雨水の流出を抑制しゲリラ豪雨による浸水被害の防止に役立っています。



雨水貯留浸透システムの施工例

# 成長戦略を支える 研究開発

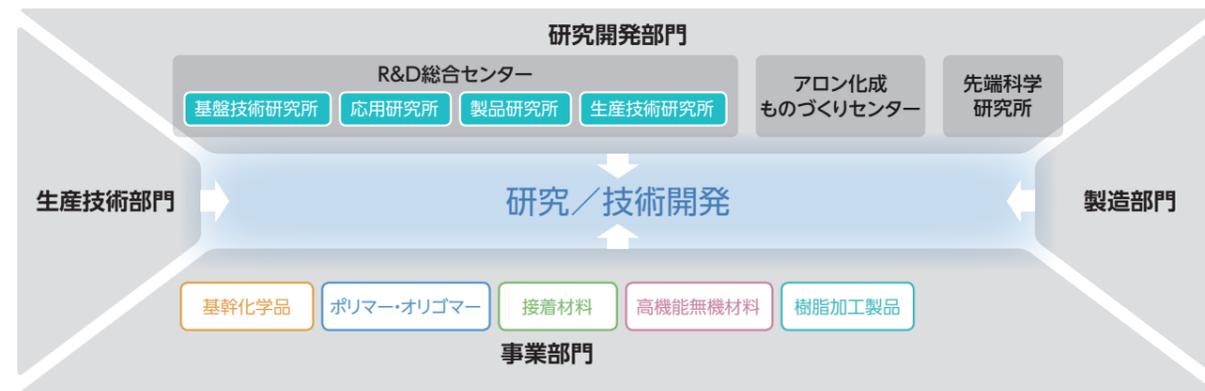


R&D総合センター

## 東亜合成グループの研究・技術開発について

研究開発においては10年先、20年先に自社のあるべき事業・技術のポートフォリオを見据えて、当社の強みを最大限に生かし、単に“材料(モノ)”を提供するだけでなく、付加価値の高い“機能(コト)”を世の中に先導的に提示していく必要があります。研究部門はコアコンピタンス(顧客に対して他社にはまねのできない自社ならではの価値を提供する企業の中核的な力)を担う技術集団として、新しい分野を切り開き、新技術・機能を作り出すための探索研究、得意技術に立脚した製品開発や新規事業分野へ進出するための研究・技術開発を行っています。

### 研究開発体制



## 研究・技術開発体制について

当社グループは、有用で魅力ある多くの化学製品を提供することにより社会に貢献し、成長を続ける企業グループを目指しています。そこで既存分野における製品開発を加速し、また今後、成長が見込まれる分野で新製品開発をスピードアップするために、R&D総合センターでは事業部門を横断して基礎研究から応用研究、製品開発、生産技術開発を一貫してマネジメントする体制のもと、研究員を重点分野に機動的に配置し、効率的な研究開発を推進しています。また、人材教育を充実させ、研究員一人ひとりの創造力とスキルの向上を図っています。

## 研究開発拠点と取り組み

### R&D総合センター

当社は2011年、R&D総合センターを開設しました。右に記載の各研究所に加え、分析評価・品質保証部門などを包含した総合研究施設であり、当社グループの将来を担う新技術ならびに新規高付加価値製品開発の中心拠点として機能しています。



### 先端科学研究所

先端科学研究所は中長期的視野から新しいビジネスを創出する役割を担っています。今まで培った各種のバイオ技術、特に機能性ペプチドを用いたバイオインフォマティクス関連技術について、京都大学IPS細胞研究所や慶應義塾大学と共同しながら、幅広い領域を対象に探索から応用研究までを積極的に行っています。

### 基盤技術研究所

- 「分析」「物性評価」「新規合成」「探索」という4つの機能を軸として、各研究所における研究、開発や生産現場をサポートするだけでなく、将来、当社グループの強みとなり得る要素技術の確立を目指しています。

### 応用研究所

- 既存の事業部門に属さない研究テーマおよび製品化のために必要な技術が不足している研究テーマに取り組み、事業化あるいは実用化に向けて、一段階ステージを進め、製品化へと橋渡しすることを使命としています。

### 製品研究所

- 基礎研究～応用研究～製品開発～生産技術開発という一連の研究開発体制において、当社の技術と顧客のニーズを融合、製品として具現化し、ソリューションとして世に送り出すことを使命としています。

### 生産技術研究所

- 既存事業の生産技術をレベルアップし、コスト削減、高品質化を担うとともに、新規開発においては初期段階よりR&D総合センターの各研究所とともにプロセス開発を進め、製品化のスピードアップを担当しています。

### アロン化成ものづくりセンター

アロン化成株式会社では、提案型メーカーとしてもものづくり力を強化し、事業の変革を生み出す組織として「ものづくりセンター」を活用しています。樹脂加工技術に基づく管工機材の開発や介護・福祉など生活用品関連製品の開発に加え、R&D総合センターとの連携により、エラストマーなどの新規成形加工技術の開発にも取り組んでいます。

## 研究年報「TREND」について

「TREND」は当社グループの研究年報です。1998年に創刊され、研究開発、生産技術開発に関する年間の活動がまとめられています。当社における最新の研究成果を当社ホームページ上でご覧いただくことができます。

研究年報「TREND」は、当社ホームページにアクセスいただき

ホーム ▶ 研究開発 ▶ 研究年報TREND からご覧いただけます。

<http://www.toagosei.co.jp/develop/theses/>



# 総合力が可能にする イノベーション

事業機会は自社のシーズから生まれることもあれば、顧客ニーズから生まれることもあります。どちらが先に生まれたとしてもシーズとニーズの両方が存在し、価値ある製品を顧客に提供することが出来て初めて事業機会となります。このシーズ技術の開発を進める研究と、これを深く理解した上で顧客ニーズとのマッチングを図る営業、タイムリーに製造を進める工場等、様々な部署の総合力によって革新的な製品が生み出されます。今回その一例として画期的な化粧品原料として注目されている吸水性微粒子について紹介します。

## 研究開発

### コア技術を活かして吸水性微粒子を開発

当社の主力製品であるアクリルポリマーは、分子量や共重合組成の設計範囲が広く、分散剤、増粘剤、ゲル化剤、粘着剤等様々な分野に使用され、社会に貢献しています。

当社は、高分子微粒子の制御技術を有し、粒子のサイズや物性を精密に制御した微粒子粉末製品もラインアップしています。これらの製品群の開発によって培ったコア技術を、新たな高付加価値製品に繋げるよう研究開発を行っています。今回の吸水性微粒子も元々は、精密加工分野のニーズに対応した技術を化粧品向けにブラッシュアップすることによって生み出した製品です。



R&D総合センター  
製品研究所  
長谷川 剛史

## 生産技術

### 最適な製造プロセスを追求

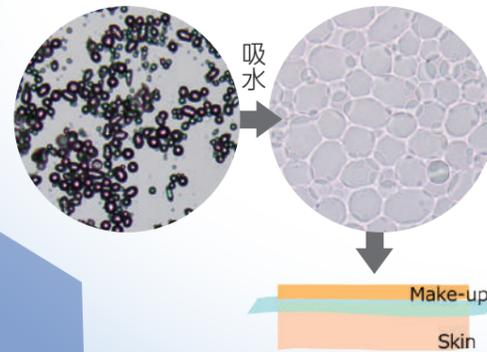
本製品は他分野で実績がある製品をベースとしましたが、化粧品用途で使用するには、各種法規制に適合した製品に仕上げる必要がありました。加えて、量産化に向けた課題もありましたが、研究部門と綿密に連携し、小試～中試での検証により解決方法を見出すことができました。量産製造の段階では、精密微粒子製品の製造プロセスをベースに、これまで培ってきた様々な製造ノウハウも導入し、顧客が要望する高品質製品の供給をスケジュールどおりに実施することができました。



広野工場 生産技術課  
里中 孝匡

## 化粧品向け吸水性微粒子

# ARON NT-Z



「ARON NT-Z」(表示名称:アクリレートクロスポリマー -2- Na)は、粒径1~30μmの白色の吸水性微粒子です。粒子が水分を吸収して最適の大きさに膨らみ、肌の凹凸にぴったりフィットします。小じわ隠し効果や平滑性を保持できるほか、保湿効果も期待できます。この当社のシーズ製品の化粧品への適用可能性を、豊富な知見を有する化粧品原料会社である日光ケミカルズ(株)が見出し、共同開発により双方の強みを生かした製品に仕上げる事が出来ました。今後国内外への拡販が大いに期待されています。



写真:日光ケミカルズ(株)様ご提供

## 営業

### 顧客のニーズをつかみ提案



ポリマー・オリゴマー事業部  
ポリマー部  
田島 誠太郎

営業の使命は、自社のシーズ技術を深く理解した上で顧客ニーズとのマッチングを図ることにあります。当社の営業は様々な分野をテリトリーとしており、ワーク次第で付加価値製品・事業を立上げるチャンスに恵まれています。今回の吸水性微粒子は全く他用途向けの製品でしたが、営業は化粧品分野で様々な微粒子が使用される知見を活かし、化粧品分野への展開を試みました。これが見事的中し最適な粒径で光の乱反射によりシワを目立たなくするという顧客のニーズをしっかりと掴み、営業は新分野への横展開を成功させました。

## 化粧品原料会社

### 独自の技術で吸水性微粒子の 応用展開を具現化

吸水性微粒子の化粧品への応用を検討し、凹凸隠ぺいによるしわ隠し効果といった基本性能以外にも多くの特徴を見出しました。

- べたつきやざらつきのないみずみずしい感触、感触改良としても利用可能
- ソフトフォーカス(ぼかし)効果でよりしわ隠しの効果大
- 幅広い剤型(液・クリーム・ジェル、W/O乳化系)への展開が可能
- 高い安全性(ヒトパッチ、ヒト感作性、Ames、眼刺激)

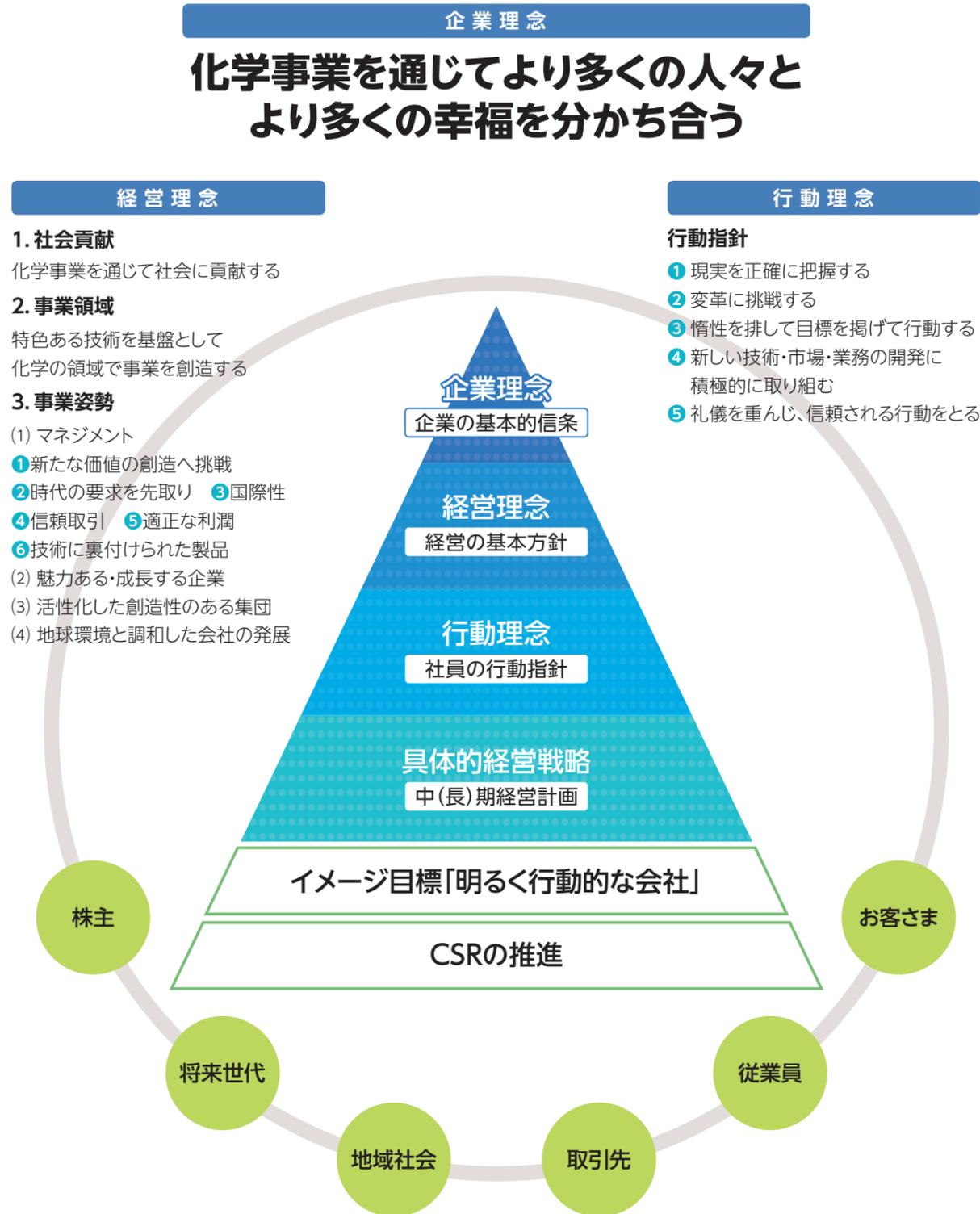
### 「in-cosmetics Asia 2017」でゴールド賞を獲得

化粧品原料会社の日光ケミカルズは、タイのバンコクで開催された「in-cosmetics Asia 2017」でARON NT-Zを出展。本イベントは400社以上の出展者が集う、アジア地域で最大の化粧品展示会。ARON NT-Zはイノベーションを実現した化粧品原料としてゴールド賞を獲得。国内外での注目を浴びることとなりました。



# CSRマネジメント

## 東亜合成グループの企業理念とCSRの体系



## 東亜合成グループのCSR

### CSR方針

東亜合成グループでは、「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」という企業理念のもと、CSR方針を策定し、CSR活動を包括的な取り組みとして進めています。

### CSR方針

- ステークホルダー\*を重視した経営の充実を図る。
- コンプライアンス(法令遵守)の徹底に向けた活動の推進を図る。
- 内部統制およびコーポレート・ガバナンス(企業統治)の向上を図る。
- RC(レスポンシブル・ケア)活動の充実を図る。
- 社会貢献にかかわる活動の推進を図る

\*当社グループのステークホルダー：お客さま、株主、従業員、地域社会、取引先、将来世代

## 2017年CSR目標と取り組み状況

東亜合成グループは、成長戦略を支える基盤としてCSR経営の深化を図っています。その認識のもとで、「2017年東亜合成グループCSR方針・目標」を作成し、これをブレークダウンして各社各部門で目標を立て、業務と一体化した活動を推進しました。CSRマネジメントのもとでPDCAサイクルを運用し、スパイラルアップを目指しました。人権および多様性の尊重については、人財の採用・育成を強化するとともに、働き方改革や女性活躍への積極的な取り組みにより、多様な人財が生き生きと働くことができる職場環境の整備を進めています。労働安全衛生、保安防災では休業災害は減少したものの、類似災害・トラブルは無くなってい

ません。2016年、2017年と作業基準などへのknow-whyの明文化を進めてきました。今後はそれらを活用した教育・技術伝承を強化していきます。環境保全では、生産量の増加に伴い環境負荷も増えましたが、電解設備の更新をはじめとして新たな省エネ技術の導入が進んだことにより、エネルギー使用原単位を削減できました。パリ協定の2030年目標達成のため、更に環境負荷軽減のための技術開発と導入を推進します。製品安全、品質保証では国際的な化学物質規制の急速な変化や、多様化するお客様からの要望に対応できるよう体制を整え、関係部門一丸となってレベルアップを図りました。

## ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダー	目標	エンゲージメントの機会
お客さま	●高品質・高機能な製品の安定的な供給	●営業活動、展示会等を通じたコミュニケーション
株主	●企業価値の向上、適切な情報開示、安定的な配当	●株主総会などの開催 ●適切な情報開示(法定開示、任意開示)
従業員	●人財の育成 ●働きやすい職場環境の実現	●教育研修の実施 ●諸制度の整備 ●グループ社内報の発行
地域社会	●地域社会との共生	●地域社会の要請に即した各種活動(社会貢献活動、地域対話等)
取引先	●公平・公正な取引によるバリューチェーンの強化	●購買活動を通じたコミュニケーション
将来世代	●将来の社会を担う世代の育成	●インターンシップの受け入れ ●工場見学の受け入れ

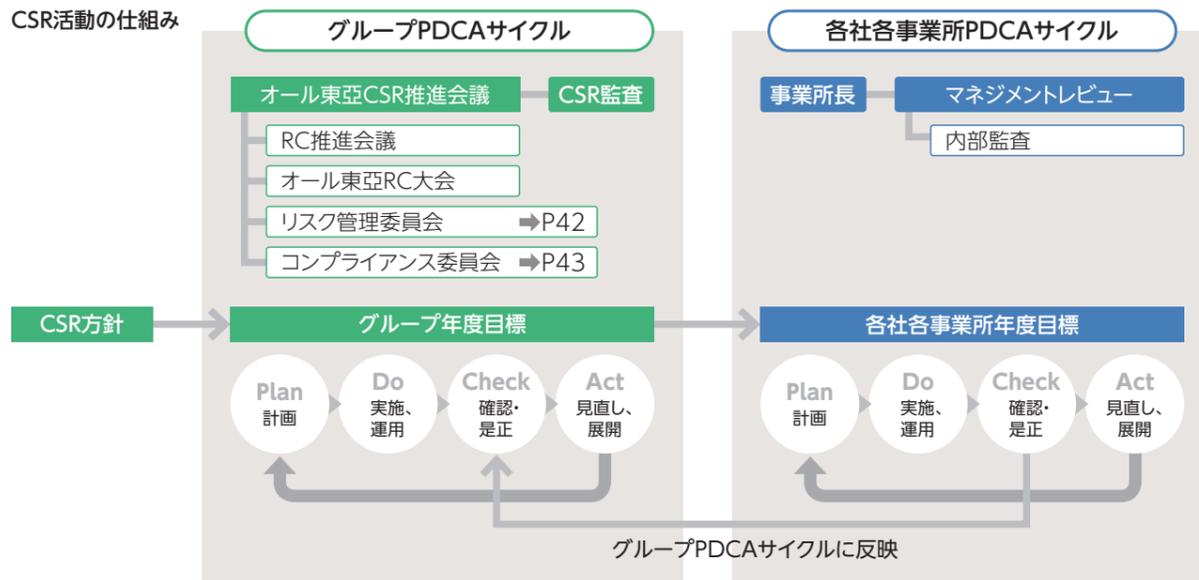
## CSRマネジメントについて

東亜合成グループでは、CSR方針に則り、ISO環境・品質マネジメントシステムの改善の仕組み(PDCAサイクル)を運営することで、CSR活動の継続的改善を推進しています。

グループの方針・目標に基づき、各社はそれぞれの方針・目標を立てます。これを踏まえ各社各事業所はそれぞれの

実行計画を策定し、活動の推進、振り返りを行います。

グループ全体では、各社各事業所のCSR活動の実施状況、方針・目標の達成状況を総括的に把握し、改善を進めるため、CSR推進会議、CSR監査、RC推進会議を実施しています。



### レスポンスブルケア推進組織の機能・活動

#### オール東亜CSR推進会議

グループ全体のCSRに係る取り組みの維持・向上を図るため、方針・目標・計画等を審議・決定する最高意思決定の会議体です。

2017年は11月6日に開催し、「コンプライアンス」、「コーポレート・ガバナンス」、「RCマネジメント」、「社会貢献、コミュニケーション」について1年間のCSR活動状況を総括し、2018年のCSR方針・目標を審議しました。

#### CSR監査

CSR推進会議の開催に先立ち、議長より委嘱された監査責任者が各社各事業所のCSRの取り組み状況を現地主体で確認するもので、監査の結果をCSR推進会議で報告します。

2017年は、5～9月に海外現地法人2社を含む15事業所のCSR監査を実施しました。監査の結果、299件の指

摘・助言と35件の優れた活動がありました。監査結果はグループ全体で共有し、CSR活動の改善を進めています。

#### RC推進会議

各社各事業所におけるRC活動の状況を包括的に振り返り、次年度のRC活動の展開について討議する会議体です。

2017年は10月25日に開催し、RC活動の実施状況と課題について総括しました。

#### オール東亜RC大会

グループ全体のRC活動のレベルアップと活動の横展開を図るために開催するものです。

2017年は6月22日、23日に高岡工場で開催し、品質・環境・安全関係の12件の体験事例発表がありました。「品質でもうけなさい」をテーマに外部講師による講演も開催しました。

### CSR活動の歩み

- 1958年 ● 環境保安年次大会(現 オール東亜RC大会)発足
- 1993年 ● 企業理念を制定
- レスポンスブル・ケア基本方針を制定
- 1995年 ● 日本レスポンスブル・ケア協会に入会
- 1998年 ● 社会貢献委員会の設立
- 2000年 ● 環境会計システムを導入
- 日本化学工業協会(日化協)のLRI<sup>\*1</sup>活動支援開始
- 2001年 ● 執行役員制度の導入
- 2001年環境報告書初版発行
- 2003年 ● 社外取締役の登用開始
- 2004年 ● 「東亜合成グループ行動憲章」、「東亜合成グループ行動基準マニュアル」制定
- コンプライアンス委員会を設置、企業倫理ヘルプラインを設置
- 2006年 ● 内部統制室を設置
- 内部統制システムの基本方針に関する決議
- 2008年 ● CSR方針を制定。CSR推進会議を設置し、グループ各社を含めたCSR推進体制を強化
- CSR報告書発行開始
- 2009年 ● 「ICCA<sup>\*\*2</sup>『レスポンスブル・ケア世界憲章』に対するCEOの支持宣言書」への署名
- 「グリーン調達ガイドライン」の制定

- 2010年 ● パラスト水処理用薬剤が国際海事機関の最終承認を取得
- 2011年 ● 「安全保障輸出管理規程」の制定
- 2012年 ● 「東亜合成グループリスク管理規程」の制定
- 日化協が主導する産業界の自主的取り組みであるJIPS<sup>\*\*3</sup>活動への参画
- 2013年 ● 東亜合成徳島工場でガス拡散電極法電解設備を竣工
- 65歳定年制度を導入
- 2014年 ● ICCA「レスポンスブル・ケア世界憲章」改訂版に東亜合成社長が再署名
- たはらソーラー・ウィンド竣工
- コンプライアンスハンドブック第1版作成配布
- 2016年 ● 「東亜合成グループ コーポレートガバナンス基本方針」制定
- 監査等委員会設置会社へ移行
- 女性活躍推進法に基づく「えるぼし」の認定取得
- 2017年 ● 統合報告書として「東亜合成グループレポート」発行開始
- 東亜合成名古屋工場で高効率新電解設備完工

※1 LRI : 人の健康や環境に及ぼす化学物質の影響に関する自主研究活動(Long-range Research Initiative)  
 ※2 ICCA : 国際化学工業協会協議会(International Council of Chemical Association)  
 ※3 JIPS : Japan Initiative of Product Stewardship

## SDGsへの取り組み

SDGsは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連総会で採択された2030年までの国際目標です。開発途上国だけでなく、先進国も含めた世界全体の経済、社会および環境の三側面が調和した持続可能な社会をつくるための17の目標(下図)、169のターゲットにより構成されています。

東亜合成グループはSDGsへの取り組みを進めるにあた

り、CSR目標と関連するSDGsのアイコンを併記し、SDGsに掲げられた優先課題の解決を意識したCSR活動を推進することにより、社会的責任を果たしていきます。

さらに当社グループが強みとする技術、ノウハウや提供する製品を通じてSDGsの課題を解決し持続可能な社会に貢献していくことを目指していきます。



# CSR活動概要

PDCA表の達成状況欄について  
 ★★★★★：目標達成  
 ★★★：進捗遅れがあり一部未達(目標の80%以上)  
 ★：目標未達(目標の80%未満)

区分	2017年推進項目	関連SDGs	2017年の目標	2017年の主な実績	達成状況	2018年の目標	掲載ページ
コーポレート・ガバナンス	●ガバナンス強化	12 16	●コーポレート・ガバナンスの強化 ①効率的な自己点検の実施 ②グループ会社の定期チェック	●各事業所、各会社において四半期毎自己点検、資産棚卸、内部統制監査等を適切に実施 ●グループ各社の取締役会議事録を受領し、内容のチェックを実施 ●取締役会の実効性について分析、評価を実施	★★★★	●コーポレート・ガバナンスの強化 ①効率的な自己点検の実施 ②グループ会社の定期チェック	P39 P42
	●リスク対応力強化		●リスクマネジメントの強化 ①本店と事業所合同危機事態対応訓練の実施 ②BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメント実施	●本店と事業所合同による危機事態対応訓練を実施 ●BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメントを実施 ●各事業所、グループ各社においてリスク低減のための諸策実施	★★★★	●リスクマネジメントの強化 ①事業部門ごとのリスクの明確化と共有、危機発生に備えた体制の構築 ②BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメント実施	
	●ステークホルダーへの適時適切な情報開示		●グループ視点での効果的な情報発信	●東亜合成グループレポート発行、株主通信・コーポレートサイト等の情報充実	★★★★	●グループ視点での効果的な情報発信	
コンプライアンス	●コンプライアンス意識の浸透 ●業務関連法規の理解・遵守徹底	3 5 8	●コンプライアンス意識の徹底 ①コンプライアンス教育の継続実施 ②コンプライアンス委員会によるモニタリング・チェックの継続  ●行政、官庁からの指導等、重大違反件数ゼロ	●各事業所、グループ各社においてコンプライアンス教育を実施 ●海外現地法人各社で、ハンドブック等を用いコンプライアンス教育を実施  ●行政、官庁からの指導があり、目標未達	★★★★  ★	●コンプライアンス教育の継続 ●コンプライアンス委員会によるモニタリング・チェックの継続  ●行政、官庁からの指導等、重大違反件数ゼロ	P43
	●地球温暖化防止の推進 ●廃棄物削減・再資源化の推進		11 12	●CO <sub>2</sub> 排出量:393千トン以下 ●廃棄物社外排出量:8,340トン以下 ●最終埋立処分量:1.5トン以下	●CO <sub>2</sub> 排出量:395千トン ●廃棄物社外排出量:11,684トン ●最終埋立処分量:3.8トン	★★ ★	●CO <sub>2</sub> 排出量:386千トン以下 ●廃棄物社外排出量:9,470トン ●最終埋立処分量:1.5トン以下
環境保全	●化学物質の排出量削減	13 14 15	●PRTR調査対象物質排出量:51トン以下	●PRTR調査対象物質排出量:48トン	★★★★	●PRTR調査対象物質排出量:44トン以下	P49
	●防災対策の強化		11	●爆発・火災事故ゼロ ●有害物・危険物重大漏洩事故ゼロ	●有害物・危険物重大漏洩事故 1件	★	●爆発・火災事故ゼロ ●有害物・危険物重大漏洩事故ゼロ
保安防災	●ゼロ炎活動の推進	3 6	●休業災害ゼロ(従業員・協力事業所)	●休業災害:1件(従業員)	★	●休業災害ゼロ(従業員・協力事業所) ●ところとからだの健康保持・増進(メンタルセミナー実施、過重労働・長時間労働の抑制、要再検者の受診率100%)	P51 P52
労働安全衛生	●化学物質管理の強化	3 12	●製品ラベルの管理強化 ●購買仕様書の整備・登録	●管理データベースへの情報登録完了 ●計画通り整備、登録完了	★★★★	●購買仕様書の整備・登録 ●化学品管理に関する法改正への着実な対応	P53
製品安全	●製品品質の継続的向上	12	●クレーム総件数 200件以下	●クレーム総件数 241件	★	●クレーム件数削減	P54
品質保証	●物流品質・物流安全の向上	12	●物流トラブルの削減	●重大漏洩事故がなく、物流アクシデントは前年比23%削減となり、目標達成	★★★★	●物流トラブルの削減	P55
物流安全	●多様な人材が生き生きと働くことができる職場環境の整備	3 5 8	●障がい者雇用率2.0%の維持	●障がい者雇用率2.0%以上を維持	★★★★	●障がい者雇用率2.4%達成	P56 P59
人権			●ワークライフバランスの推進(平均有給休暇取得率100%達成)	●平均有給休暇取得率はグループ全体で89.6%となり、前年を上回ったものの、目標未達	★★	●ワークライフバランスの推進(平均有給休暇取得率100%達成)	
			●女性活躍の推進(女性活躍推進計画の遂行)	●女性活躍推進法に基づく女性活躍推進計画の遂行 ●「配偶者海外転勤退職規則」「リレントリー制度規則」を1月から施行 ●女性の製造部門への職域拡大の実施	★★	●女性活躍の推進(女性活躍推進計画の遂行)	
社会貢献・コミュニケーションの充実	●社会貢献活動の充実	14 15	●自然保護、美化・緑化、文化・スポーツ活動の支援 ●寄付・寄贈の実施 ●将来の化学人材育成、ダイバーシティ推進等の各種プロジェクト参画	●事業所所在地域での植樹植林活動・清掃美化ボランティア活動、スポーツ大会支援等を継続 ●九州北部豪雨義援金拠出 ●化学人材育成プログラムへの参加・協賛継続、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム(留学支援)」へ寄付金拠出継続	★★★★	●社会に役立つ寄付・寄贈の実施 ●美化・緑化活動、文化・スポーツ活動への参加・支援 ●将来の化学人材育成、ダイバーシティ推進等の各種プロジェクト参画 ●生物多様性の保全活動	P60 P61
	●地域との共生		●事業所周辺の美観維持活動の徹底	●定期的に工場外周の点検巡回ならびに清掃を実施	★★★★	●事業所周辺の美観維持活動の徹底	
社会貢献・コミュニケーションの充実			●地域対話の拡大 ●会社情報の発信	●工場見学、職場見学等の受け入れ ●地域防災訓練等に参加、協力 ●地域団体の会合、地域対話等を各事業所、グループ各社で実施	★★★★	●地域対話の拡大 ●会社情報の発信	

# コーポレート・ガバナンス



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンスの強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①効率的な自己点検の実施</li> <li>②グループ会社の定期チェック</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所、各会社において四半期毎自己点検、資産棚卸、内部統制監査等を適切に実施</li> <li>グループ各社の取締役会議事録を受領し、内容のチェックを実施</li> <li>取締役会の実効性について分析、評価を実施</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>コーポレート・ガバナンスの強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①効率的な自己点検の実施</li> <li>②グループ会社の定期チェック</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントの強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①本店と事業所合同危機事態対応訓練の実施</li> <li>②BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメント実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本店と事業所合同による危機事態対応訓練を実施</li> <li>BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメントを実施</li> <li>各事業所、グループ各社においてリスク低減のための諸施策実施</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>リスクマネジメントの強化                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①事業部門ごとのリスクの明確化と共有、危機発生に備えた体制の構築</li> <li>②BCP等についてリスク管理委員会による定期的リスクアセスメント実施</li> </ul> </li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ視点での効果的な情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東亜合成グループレポート発行、株主通信・コーポレートサイト等の情報充実</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ視点での効果的な情報発信</li> </ul>

取締役



社外取締役 小池 康博	社外取締役 中西 智	取締役 (監査等委員) 小峰 朗	社外取締役 (監査等委員) 原田 力	社外取締役 (監査等委員) 北村 康央	社外取締役 (監査等委員) 高野 信彦	
取締役 アロン化成株式会社 代表取締役社長 杉浦 伸一	取締役 業務本部長 兼定 盛幸	取締役 グループ経営本部長 伊藤 克幸	代表取締役 社長 高村 美己志	代表取締役副社長 兼経営戦略本部長 石川 延宏	取締役 管理本部長 鈴木 義隆	取締役 技術生産本部長兼 研究開発本部長 美保 享

## コーポレート・ガバナンス体制

### 基本的な考え方および体制

当社グループは「東亜合成グループ コーポレートガバナンス基本方針」を制定し、「化学事業を通じてより多くの人々とより多くの幸福を分かち合う」との企業理念に基づき、企業の社会的責任を果たすべく、コーポレート・ガバナンスの充実を経営上の重要課題の一つと位置付けています。当社グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、透明・公正かつ迅速・果敢な意思決定を実現する実効的なコーポレート・ガバナンスを追求し、その充実に継続的に取り組んでいます。

当社グループのコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、次のとおりです。

1. 株主の権利を尊重し、その平等性を確保する。
2. 株主、顧客、取引先、従業員、地域社会をはじめとする

様々なステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと良好な関係を築き、適切に協働する。

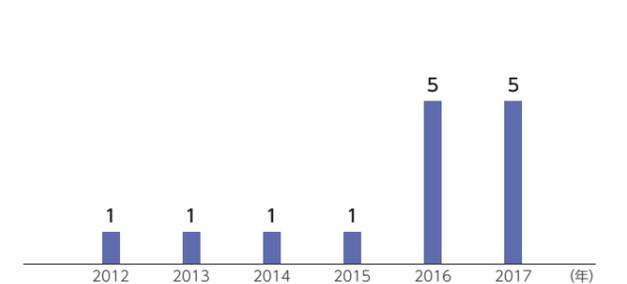
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. 取締役会による業務執行に対する監督機能の実効性確保に努める。
5. 中長期的な株主の利益と合致する投資方針を有する株主との間で建設的な対話を行う。

当社は監査等委員会設置会社であり、複数の独立社外取締役を含む監査等委員が取締役会の議決権を有することにより、業務執行に対する監査・監督機能を強化しています。また、経営上の重要な意思決定の全部または一部を取締役に委任できる旨を定款に定めることで、監督と業務執行を分離し、業務執行にかかる迅速な意思決定が可能な体制を構築しています。

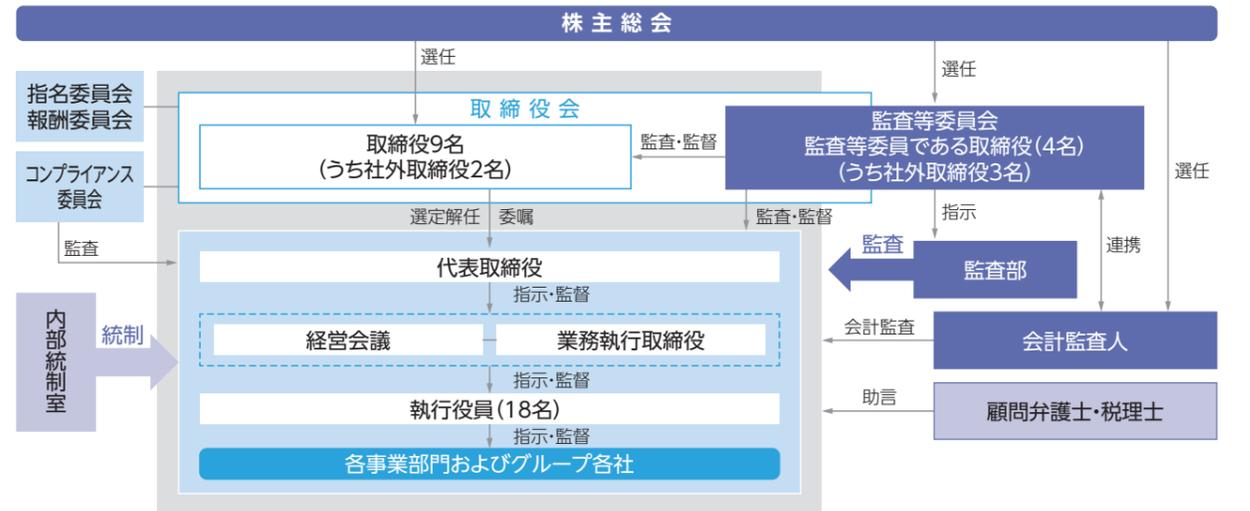
コーポレート・ガバナンス継続強化の取り組みの経過

年度	項目
2001	執行役員制度の導入
2003	社外取締役の登用開始
2006	内部統制室の新設 内部統制システムの基本方針に関する決議
2016	「東亜合成グループ コーポレートガバナンス基本方針」制定 監査等委員会設置会社へ移行
2017	取締役会の実効性評価開始

社外取締役の人数(名)



コーポレート・ガバナンス体制図



## コーポレート・ガバナンス

## 経営体制

取締役会は、社内取締役7名、独立社外取締役2名および監査等委員である取締役4名(うち独立社外取締役3名)で構成され、独立社外取締役5名が主に取締役会の経営監督機能を強化する役割を担っています。

業務執行に関しては、業務執行取締役で構成する経営会議を原則として毎週開催し、取締役会付議事項の事前審議を行うとともに、取締役会決議により委譲された重要事項にかかる審議・決定および実務的な協議を行っています。また、当社は執行役員制度を採用し、機動的な意思決定および効率的な業務執行を実現するとともに、業務執行責任の明確化を図るため、取締役(監査等委員である取締役を除く。)と執行役員の任期を1年としています。

## 監査体制

監査等委員会は、取締役4名(うち独立社外取締役3名)で構成され、取締役会における議決権等の監督権限の行使に加え、重要会議への出席や当社グループの取締役、執行役員、使用人および外部会計監査人に対して適時適切

な報告を求めることにより、取締役等役員の職務執行の適法性、会社業務の適正性、内部統制、財務状況等についての監査を実施しています。

また、監査等委員の職務を補助するために監査部を設置し、複数の使用人を監査等委員の専任スタッフとして配置しています。加えて、外部会計監査人および内部統制室と必要な情報を共有することで、実効性のある監査の実現に努めています。

## 指名委員会・報酬委員会、取締役会の実効性評価

経営の客観性と透明性を高めるため、取締役会の諮問機関として独立社外取締役が参画する指名委員会および報酬委員会を設置し、取締役候補者の選任手続きや資質、取締役の報酬体系や個別報酬について検討し、答申を行っています。

また、取締役会は、毎年各取締役の自己評価を参考にし、取締役会の実効性について分析・評価を行い、結果の概要を開示しています。認識された課題については改善を検討し、取締役会の実効性の向上に努めています。

## 内部統制

コーポレート・ガバナンス強化のため、取締役会において内部統制システムの基本方針を決議しています。同方針に従い、監査部は当社グループのコンプライアンスの状況、業務の適正性に関する内部監査を実施しています。

また、内部統制室は、独立した立場から内部統制の運用

状況を確認し、その結果を監査等委員に報告をするとともに、内部統制報告制度(J-SOX)に基づく内部統制業務(財務報告の適正性を確保するための業務)を行っています。監査部および内部統制室は相互に連携を取りつつ、当社グループ全体の業務が法令等に則り、適切に実施されることを確保しています。

## リスクマネジメント

## リスク管理委員会

事業活動を行う過程で生じるリスクの管理に関する基本的な枠組みを「東亜合成グループリスク管理規程」に定め、同規程に基づきリスク管理委員会を設置しています。同委員会は、グループ全体のリスクを把握・管理するため、リスクの洗い出しや評価、対策の策定、対策状況のチェックなどを定期的に行っています。

想定されるリスク

- 自然災害・感染症
- その他外部環境によるリスク
- 環境・安全リスク
- 製品リスク
- 法務リスク
- 広報リスク
- 財務リスク
- 人事・労務リスク
- 政治リスク
- 経済リスク
- 社会リスク

## BCP(事業継続計画)

災害発生時に収集すべき情報、検討すべき課題等をリスト化し、訓練を通して有効性の確認を行っています。訓練で判明した検討課題はリスク管理委員会でも議論し、改善に向けたアクションを進めています。

## 危機事態直面時の対応

危機事態に直面した際の具体的な手順などを「東亜合成グループ危機事態対応規程」に定めている他、事業所別には「緊急事態措置マニュアル」を定め、定期的な訓練を行っています。2017年は東亜合成の本店と高岡工場による危機事態合同対応訓練を実施しました。

## 情報漏洩リスク対策

社内規程に基づき「営業秘密」を特定する「機密情報リスト」の整備および更新を継続して行い、情報漏洩リスク対策を推進しています。また、教育により管理意識の浸透を図るほか、情報セキュリティ体制の継続的な改善を行っています。2017年はパソコンのシンクライアント化\*による機密漏洩防止の強化や、工場制御系のウイルス対策強化を実施しています。

\*データおよびソフトはパソコンに保存せず、仮想サーバーにアクセスし、業務を行う仕組み

## 社外取締役からのメッセージ



## 社外取締役(監査等委員) 原田 力

当社は監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行して2年になります。監査等委員会は3名の社外取締役を含む4名の取締役監査等委員で構成され、監査部を指揮下に置き、会計監査人・内部統制室と連携して取締役会ならびに取締役の業務執行の監査監督を行っています。2017年は16回の委員会を開催したほか、経営者面談、重要会議への出席、工場実査、子会社社長ヒアリングを実施しました。今後とも、これまでの金融機関等での知識・経験を踏まえ、当社の公正で透明性の高いコーポレートガバナンス体制の維持・徹底、そして持続的な成長と中長期的な企業価値の向上「成長への軌道2019」の達成に向け貢献してまいります。



## 社外取締役(監査等委員) 北村 康央

当社グループは、皆様にもおなじみの「アロンアルファ」を含め、さまざまな化学製品を通じて社会の基盤を支えています。幅広い分野で先進的な事業に取り組む上で、法令を遵守し的確な意思決定ができるよう、当社は、各分野の専門家から私を含めて社外取締役5名(うち監査等委員3名)を選任し、透明性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築しています。私は、弁護士として企業法務を中心に活動してきた経験を活かし、化学業界のプロフェッショナルである社内取締役や他の社外取締役と相互に緊張感を持ちつつ協力して、当社の企業価値向上に貢献できるよう尽力する所存です。

## 情報開示

当社は、各種法令や東京証券取引所の定める規則に則ったグループ情報の適時適切な開示に努めています。また、アナリスト向け決算説明会の開催、財務・非財務情報を総合的に網羅した「東亜合成グループレポート」の発行、英文開示情報の拡充など、ステークホルダーの皆さまに当社グループをご理解いただくために積極的な情報開示を行っています。



## 当社のコーポレートサイト

コーポレートサイトの情報充実にも注力しています

<http://www.toagosei.co.jp/>

# コンプライアンス



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス意識の徹底                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①コンプライアンス教育の継続実施</li> <li>②コンプライアンス委員会によるモニタリング・チェックの継続</li> </ul> </li> <li>行政、官庁からの指導等、重大違反件数ゼロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所、グループ各社においてコンプライアンス教育を実施</li> <li>海外現地法人各社で、ハンドブック等を用いたコンプライアンス教育を実施</li> <li>行政、官庁からの指導があり、目標未達ゼロ</li> </ul>	<p>★★★</p> <p>★</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンプライアンス教育の継続</li> <li>コンプライアンス委員会によるモニタリング・チェックの継続</li> <li>行政、官庁からの指導等、重大違反件数ゼロ</li> </ul>

## 企業倫理と法令遵守

### 行動憲章および行動基準マニュアル

東亜合成グループでは、すべての役員・従業員が良き社会人として行動するための根本規範かつ正しい行動のよりどころとして、「東亜合成グループ行動憲章」および「東亜合成グループ行動基準マニュアル」を定めています。これらは当社グループの全従業員が所持するコンプライアンスハンドブックにも記載し、従業員への周知を図っています。

### コンプライアンス委員会

当社グループでは、役員および社外委員の弁護士で構成するコンプライアンス委員会を設置しています。同委員会は、コンプライアンスを重視した経営を行うため、当社事業所およびグループ各社（海外現地法人含む）のコンプライアンス施策の実施状況を定期的に監督・調査し、改善勧告を行っています。

### 企業倫理ヘルプライン

当社グループでは、コンプライアンスに関する問題を早期に発見して解決する自浄システムとして「企業倫理ヘルプライン（コンプライアンス・ホットライン）」を社内・社外にそれぞれ設置しています。また、2017年にはセクシャルハラスメント等相談専用窓口を設置し、女性の働きやすい環

境づくりにも力を注いでいます。

### コンプライアンス教育

当社グループでは、コンプライアンス意識浸透のため、従業員の階層別教育やグループ全体への教育、各職場単位での自主的な教育を推進しています。2017年は新入社員、管理職への階層別教育や事業部門・購買部門・営業部門に向けた下請法教育、海外グループ会社でのコンプライアンス教育強化などを実施しました。また、各職場においてコンプライアンスハンドブック等を利用した教育を実施しました。本ハンドブックでは法令だけでなく事業活動上注意すべき様々な事項が「やらなければいけないこと」「やってはいけないこと」という形で分かりやすく記載されており、従業員の網羅的な啓発に役立っています。

### 事業活動上のコンプライアンス

当社グループでは、法令に即した事業活動を行うために規程類の整備や社内機関による審査を行っています。例えば独占禁止法・下請法の場合、当社の指針や取り組みを「独占禁止法遵守マニュアル」に定めている他、製品価格の改定時には社内の「独占禁止法遵守委員会」の審査を経ることで法令違反を防ぐよう努めています。

## TOPICS 中国語版コンプライアンスハンドブックの配布

東亜合成グループコンプライアンスハンドブックの中国語版が完成し、東亜合成（珠海）有限公司、東亜合成香港有限公司および張家港東亜迪愛生化学有限公司の全社員に配布されました。現地法人各社は、急速に経済発展を遂げる中国において、コンプライアンスハンドブックをグループ共通の行動規範として活用していきます。



張家港東亜迪愛生化学有限公司 作成担当者（左から李健・張広華・徐丹）

東亜合成（珠海）有限公司 作成担当者（劉伝美）

# RCマネジメント

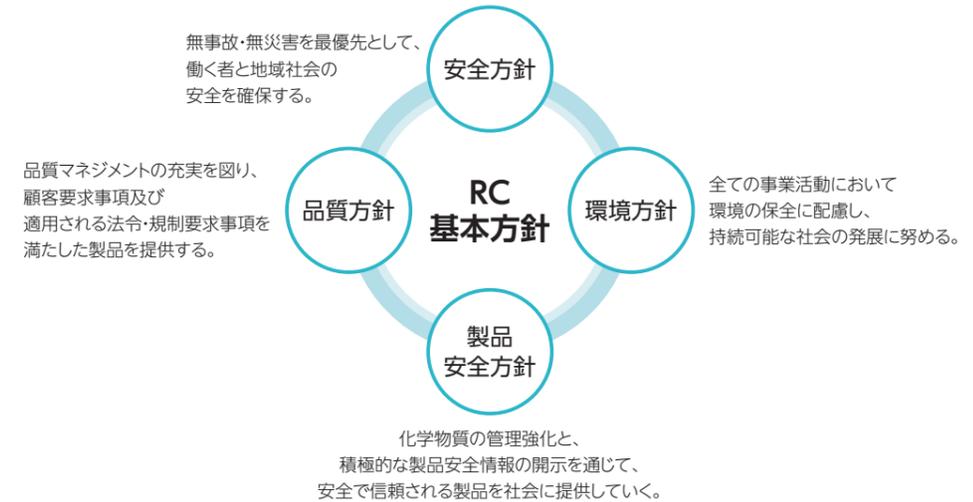
## RC基本方針

東亜合成グループは、化学企業として安全（労働安全衛生・保安防災・製品安全・物流安全）の確保と環境保全の取り組みを継続して確実に進めるためにRC基本方針を掲げ、RC活動を推進しています。

企業理念に則り、有用な化学製品を提供していくことで

社会に貢献していくことを基本に、その事業活動全般を通して働く者および社会の皆さまの安全を最優先とし、原材料の調達から使用後の製品の廃棄に至るすべての過程を対象に環境への負荷を低減することを目指しています。

製品の開発から使用後の廃棄に至る過程のあらゆる段階において、製品安全、保安衛生、環境保全に配慮し、顧客・社会からの信頼性向上に努める。



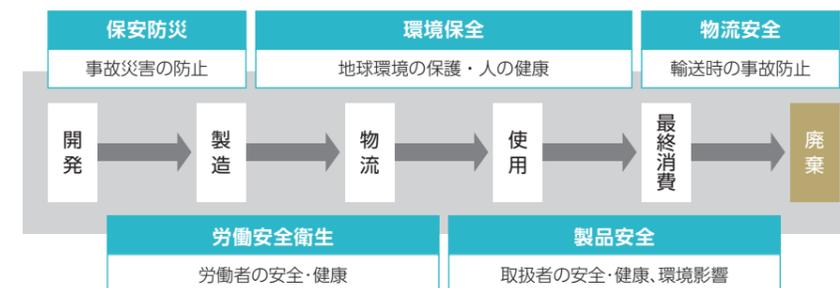
## 東亜合成グループとRC

RC活動とは製品の全ライフサイクルにわたって化学物質を取り扱う企業が自主的に「環境・安全・健康」の確保に取り組み、活動の成果を公表し、社会とのコミュニケーションを図っていくものです。

当社は、一般社団法人日本化学工業協会が1995年に設立した日本レスポンシブル・ケア協議会（JRCC）に発足当

時から加盟し、グループが一体となってRC活動を進めています。

2009年にICCA（国際化学工業協会協議会）が制定し、2014年に改定された「レスポンシブル・ケア世界憲章」の趣旨に賛同し、積極的にRC活動に取り組むために当社経営トップが署名をしています。



# 環境保全



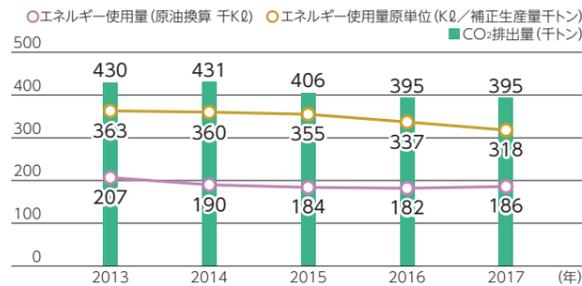
P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
● CO <sub>2</sub> 排出量: 393千トン以下	● CO <sub>2</sub> 排出量: 395千トン	★★	● CO <sub>2</sub> 排出量: 386千トン以下
● 廃棄物社外排出量: 8,340トン以下 ● 最終埋立処分量: 1.5トン以下	● 廃棄物社外排出量: 11,684トン ● 最終埋立処分量: 3.8トン	★	● 廃棄物社外排出量: 9,470トン以下 ● 最終埋立処分量: 1.5トン以下
● PRTR調査対象物質排出量: 51トン以下	● PRTR調査対象物質排出量: 48トン	★★★	● PRTR調査対象物質排出量: 44トン以下

## 地球温暖化防止への取り組み

### エネルギー使用量低減によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

東亜合成グループでは、CO<sub>2</sub>排出量削減のために生産効率化や省エネ活動に取り組んでいます。2017年は、国内製造拠点での生産量増加に伴い、エネルギー消費量は原油換算で前年比2.5%、CO<sub>2</sub>排出量もわずかに増加しました。しかし、エネルギー使用原単位は、グループ全体の生産バランスの効率化、製造拠点の集約、省エネ型新設備導入などの効果により削減しています。2017年11月に東亜合成名古屋工場の新電解設備が完工し、2018年春にはアロン化成名古屋工場管材新設備が始動することにより今後より一

### 過去5年間のエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>排出量の推移

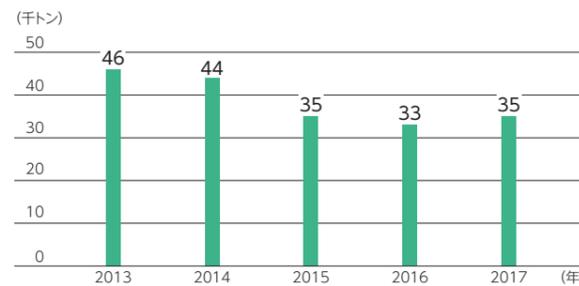


層のエネルギー原単位削減が期待できます。

海外製造5拠点のCO<sub>2</sub>排出量は、2013年から徐々に削減してきましたが、2017年は生産量増加により2015年並となりました。

グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量は、パリ協定(COP21)で採択された2030年までの国際的な目標を見据えて2013年の排出量からマイナス26%と目標設定し、削減に取り組んでいます。

### 海外5製造拠点<sup>※</sup>の過去4年のCO<sub>2</sub>排出量推移



※対象範囲の海外5拠点  
 ● Toagosei America Inc. ● 東亜合成(珠海)有限公司  
 ● Toagosei Singapore Pte Ltd. ● 張家港東亜迪愛生化学有限公司  
 ● 東昌化学股份有限公司

## 環境コミュニケーション

当社グループでは、コンプライアンスを重視した経営を推進する中で、環境についても法規制の順守を基本とした事業活動を実践しています。各事業所では県、市町村の環境保全条例や公害防止協定を順守し、行政、地域社会とも一体となった環境管理を行っています。

2017年は所管官庁に報告を要する環境事故はありませんでした。

各工場では近年の異常気象による台風や集中豪雨でも

環境事故を起こさぬよう、排水、排気設備の強化や、緊急時への訓練を実施しています。

### 公害防止協定の締結状況

会社	公害防止協定等締結行政機関
東亜合成	名古屋工場(名古屋市)、横浜工場(横浜市)、高岡工場(高岡市)、徳島工場(徳島県、徳島市、北島町)、広野工場(広野町)、先端科学研究所(つくば市)
アロン化成	関東工場(古河市)
大分ケミカル	大分工場(大分県、大分市)
MTエチレンカーボネート	大阪工場(高石市)

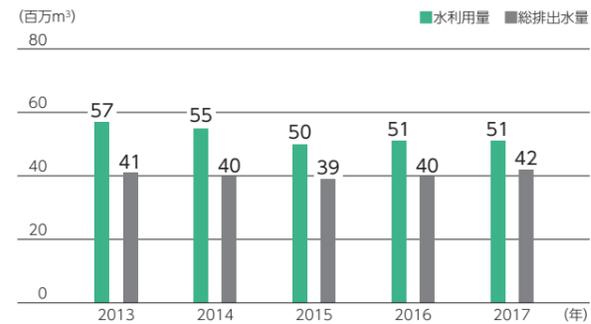
## 環境負荷低減への取り組み

### 水質の保全

当社グループでは、水を限りある資源と捉え効率的な利用の促進に努めています。2017年は生産量増加に伴い、国内グループ全体で水利用量は51百万m<sup>3</sup>(前年並)、総排水量は42百万m<sup>3</sup>(対前年比+7.2%)となりました。排水については、自主管理値を設定し、排水管理を徹底しています。閉鎖系海域(東京湾、伊勢湾、瀬戸内海)に隣接する工場では、全窒素、全リンの自動測定装置を設置し、総量規制の管理に対応しています。

また、海外製造拠点でも水資源の利用は各国の排出規制を順守して管理を行っています。2017年の海外製造拠点全体での水利用量は23万m<sup>3</sup>でした。

### 過去5年の国内水利用量推移



### 大気の大気

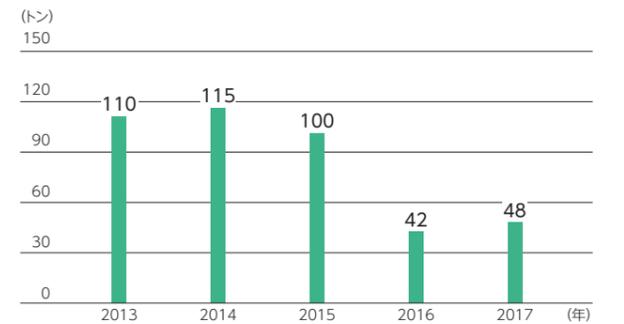
当社グループでは、排ガス中の硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)、窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)、ばいじんについて、国の排出基準および地域との協定による規制値を順守するため、自主管理値を設定し排ガスの管理を徹底しています。また、海外の製造拠点においても、各国の規制に従い排ガスを管理しています。

### 化学物質排出量削減

当社グループでは、「化学物質排出管理促進法」(通称PRTR法)に従い各事業所で適正に届出をしています。

2015年までPRTR調査対象物質排出量の大きな割合を占めていた坂出工場のクロロメタン(塩化メチル)は、同年11月から稼働した新たな吸収除害設備により大幅に削減し、グループ全体のPRTR調査対象物質排出量も以前の半以下の数値となりました。2017年はグループ全体で、他のPRTR調査対象物質についても正確な排出量の把握に取り組みました。測定機器の導入や算出方法の見直しにより今後もより正確な排出量の把握に努め、一層の削減を図っていきます。

### PRTR調査対象物質排出量の推移



### 主なPRTR調査対象物質の排出量

主な排出物質	2017年 (t)
クロロメタン(塩化メチル)	20.9
クロロエチレン(塩化ビニル)	5.9
アクリル酸メチル	3.8
ジクロロメタン(塩化メチレン)	2.4
トルエン	1.7

## TOPICS ▶ GSC奨励賞受賞

当社が開発したプロパン酸化触媒によるアクリル酸製造技術が、2017年7月新化学技術推進協会のGSC奨励賞を受賞しました。GSCとは「グリーン・サステイナブル ケミストリー (Green and Sustainable Chemistry)」の略称で「環境負荷低減」と「持続可能社会」を実現するための「人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学」を意味します。本技術は従来法と比べて、大気汚染物質の排出が少なくCO<sub>2</sub>排出原単位が32%削減されるなどの長所があります。大分ケミカルにて本技術の実証試験まで実施しています。



GSC奨励賞

## 循環型社会への取り組み

### 最終埋立処分量の削減と廃棄物リサイクルの取り組み

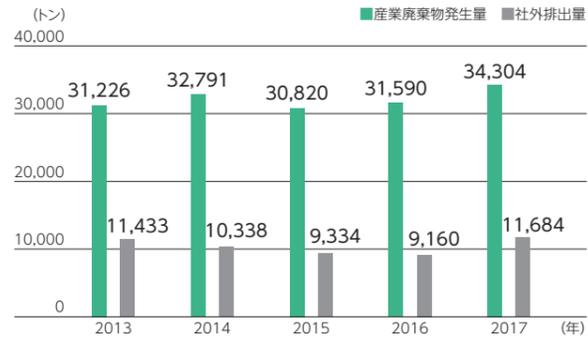
2017年のグループ全体の廃棄物の最終埋立処分量は約4トン、最終埋立処分率が0.01%となりました。

引き続き最終埋立処分する廃棄物をゼロに近づけることを目標とします。

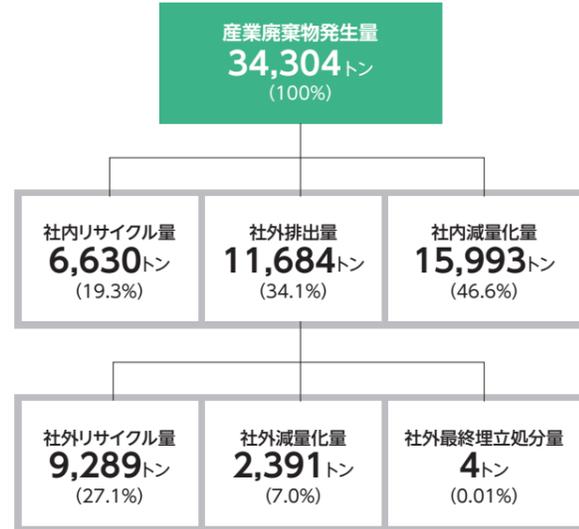
2017年は生産活動の増加(対前年比8.8%増)に伴い、産業廃棄物発生量は対前年比8.3%増となりました。

産業廃棄物は、マテリアルリサイクルやサーマルリサイクルに使用されるよう排出先を選定しています。

産業廃棄物発生量と社外排出量の推移



産業廃棄物処理フロー



## 環境会計

東亜合成グループでは、環境活動にかかわるコストとその効果を把握し、より効率的な環境保全活動を行うための判断材料とするために、2000年より環境会計を導入しています。また、環境への取り組み姿勢を理解していただくために、その内容をステークホルダーの皆さまへ公表してきました。2017年は、2016年に引き続き、省エネ設備への転換を重点的に行いました。大気や水域への有害物質排出防止設備の改良、維持管理も継続的に費用を投じています。環境保全に資する研究開発も継続しています。

- 集計対象：P.49(「事業活動と環境負荷」の項目)に掲載している会社・事業所
- 集計対象期間：2017年1月1日から12月31日までの期間
- 集計方法：
  - ① 環境省環境会計ガイドライン(2005年版)を参考に作成した当社の「算出ルール」で集計しました。
  - ② 環境保全目的以外のコストを含む複合コストについても、環境への影響度に応じて按分し、環境コストとして集計しています。
  - ③ 投資額は予算金額、費用額は実績金額を集計しました。
  - ④ 効果を明確に算出できるものについては、貨幣単位、物量単位で算出しました。ただし、リスク回避や見なし効果など定量化が困難な効果は含めていません。

コスト分類別環境投資額・費用額

環境保全コスト分類(主な取り組み内容)		投資額 (百万円)	費用額 (百万円)
内訳	(1) 事業エリア内コスト	2,117	5,894
	①公害防止コスト(大気汚染防止、水質汚濁防止のためのコスト)	966	5,261
	②地球環境保全コスト(地球温暖化防止、省エネルギー、オゾン層破壊防止のためのコスト)	1,019	367
	③資源循環コスト(資源の効率的利用、産業廃棄物の処理・処分のためのコスト)	131	266
	(2) 上・下流コスト(生産・サービス活動に伴い上流・下流で生じるコスト:グリーン購買等)	4	2
	(3) 管理活動コスト(環境マネジメントシステムの整備・運用、環境負荷の監視・測定、環境教育のためのコスト)	26	468
	(4) 研究開発コスト(環境保全に資する製品等の研究開発、製造段階の環境負荷抑制のためのコスト)	9	214
	(5) 社会活動コスト(自然保護・緑化等環境改善対策、環境保全団体の寄付・支援、地域住民に関係する取り組みのためのコスト)	0	39
	(6) 環境損傷対応コスト(自然修復、環境保全に関する損害賠償等のためのコスト)	0	11
	(7) その他環境保全に関連するコスト	2	146
	合計	2,158	6,774

貨幣単位による効果

硬化の種類	数量	効果
有価物のリサイクルによるメリット	2,816トン	58百万円

## 環境に寄与する製品・技術

東亜合成グループでは、様々な分野で環境に寄与する製品を製造・開発をしています。また、既存の製品についてもCO<sub>2</sub>排出量削減に繋がる技術の開発をしています。

環境に寄与する製品群

事業分野	製品	内容
基幹化学品	「次亜塩素酸ソーダ」、 「アロンクリン®」、 「ツルクロン®」	より安全で安心な飲料水を求める声の高まりに応じて、塩素酸や臭素酸などの不純分の含有量を低減したグレードを開発し、安定的に供給しています。
	パラスト水処理システム薬剤 「TG/パラストクリーナー®」、 「TGエンパイロンメンタルガード®」	各地域に生息する海洋生物の生態系に悪影響を与える船舶のパラスト水を安全に処理する薬剤として、海洋環境の保全・維持に貢献しています。
	エチレンカーボネート	環境にやさしい電気自動車やハイブリッド自動車等のリチウムイオン電池電解液の主原料の一つとして使用されています。
ポリマー・オリゴマー	高分子凝集剤「アロンフロック®」	下水処理場、工場排水などの浄化に幅広く使用されています。
	光硬化型樹脂「アロニックス®」	有機溶剤を使用しない環境負荷の少ない樹脂材料として、塗料・インキ・接着剤など様々な用途、分野で使用されています。
接着材料	瞬間接着剤「アロンアルファ®」	幅広い材料を接着できる無溶剤の接着剤です。容器に使用している樹脂は、50%以上をリサイクルした再生プラスチックでエコマーク認定を受けています。
	ホットメルト系接着剤(固形タイプ)	ポリエステル系PES、オレフィン系PPET等は、有機溶剤を含まず環境に優しい接着剤で、その生産性の高さから自動車、建材等で幅広く使用されています。
	粉体塗料「アロンパウダー®」	有機溶剤を使用しない環境対応型の粉体塗料です。粉体塗料は未塗着塗料の回収・再利用が可能のため、ロスがありません。
高機能無機材料	抗菌剤「ノバロン®」	細菌に対する抗菌効果が持続し、繊維・プラスチック・塗料などに使用されています。
	無機系消臭剤「ケスモン®」	アンモニア、酢酸、硫化水素、アルデヒドなどの悪臭ガスに対し、活性炭よりも即効性が高い消臭能力を持ち、持続性にも優れた消臭剤です。
	有機/無機ハイブリッド防カビ剤「カビノン®」	防カビ成分を無機層状化合物に入り込ませることで、耐久性・耐候性に優れた防カビ効果を発揮させる製品です。
樹脂加工製品	機能性「雨水マス」 「切替マス®」	機能性「雨水マス」は、「ゴミの侵入防止」「流出抑制」「逆流防止」の各機能を有し、ゲリラ豪雨対策に設置された雨水貯留浸透槽の長寿命化に貢献します。また、「切替マス®」は、地震などで下水道本管が破損しても、非常用に設置した汚水槽への排水へ切り替えることにより、通常通りトイレをご利用いただける製品です。
	建材製品「アロンウォール®」「アロンコート®」	建物の外壁・屋上を防水し、建物を劣化から守ることで長持ちさせます。
	「エラストマーAR」	エラストマーとは、ゴムに近い特性を持ちながら成形性に優れ、リサイクルできるプラスチックのことです。これらの機能を活かし、エラストマーARは医療や家電、自動車など幅広い用途で使用されています。

環境保全

事業活動と環境負荷

集計対象範囲			集計期間
東亜合成グループ	東亜合成	工場	名古屋工場、横浜工場、高岡工場、徳島工場、坂出工場、川崎工場、広野工場(福島県)
		研究所	R&D総合センター(愛知県)、先端科学研究所(茨城県)
	グループ会社	アロン化成	関東工場(茨城県)、名古屋工場、ものづくりセンター(愛知県)、滋賀工場、尾道工場
		大分ケミカル	大分工場
			2017年 1月1日から 12月31日までの 1年間

エネルギー使用量

	2016年	2017年
エネルギー使用量(原油換算 千kℓ)	183	186
原単位(kℓ/補正生産量千トン)	337	318

水利用量

	2016年	2017年
水資源(百万m <sup>3</sup> )	50	51

INPUT

東亜合成グループ国内生産拠点



OUTPUT

事業活動

	2016年	2017年
生産量(千トン)	1,090	1,186

水域への環境負荷

	2016年	2017年
総排水量(百万m <sup>3</sup> )	40	42
COD(トン)	109	116
全窒素(トン)	30	33
全リン(トン)	1.2	1.4
PRTR調査対象物質(トン)	8	4

産業廃棄物

	2016年	2017年
産業廃棄物発生量(トン)	31,689	34,304
社外排出量(トン)	9,160	11,684
最終埋立処分量(トン)	50	4

大気への環境負荷

	2016年	2017年
CO <sub>2</sub> (CO <sub>2</sub> 換算、千トン)	395	395
SOx(トン)	27	40
NOx(トン)	71	71
ばいじん(トン)	7	7
PRTR調査対象物質(トン)	34	44

保安防災



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>爆発・火災事故ゼロ</li> <li>有害物・危険物重大漏洩事故ゼロ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>有害物・危険物重大漏洩事故 1件</li> </ul>	★	<ul style="list-style-type: none"> <li>爆発・火災事故ゼロ</li> <li>有害物・危険物重大漏洩事故ゼロ</li> </ul>

保安防災への取り組み

防災会議

新製品を製造する、または、生産方式あるいは設備を変更する場合には、「防災会議」を開催し、保安防災、労働安全衛生、環境保全、製品安全、品質保証の面から計画内容を審議し、対処しています。防災会議は、規模と内容に応じて、「正規防災会議」「簡易防災会議」「防災担当者会議」の3段階に区分して行っています。「リスクアセスメント」、「化学物質のリスクアセスメント」の検討内容についても確認できるようにしています。

防災訓練

各事業所は緊急事態に備え、定期的に消防署等と協力して防災訓練を実施しています。例えばアクリル製品製造各工場では、タンク液温異常上昇を想定した重合禁止剤

投入訓練など、実情に即した訓練を行っています。コンビニート地区にある事業所は地区の共同防災協議会との合同防災訓練などにより、連携・役割等の確認を行い、緊急事態に対処できるようにしています。

徳島工場は、2017年6月に今切防災連絡会と徳島市消防局合同で「危険物流出・火災消防訓練」を行いました。



防災訓練の様子①  
負傷者の手当て(徳島工場)



防災訓練の様子②  
はしご車発進(徳島工場)

安全・安心な製造体制を維持します

VOICE

事故は、その大小を問わず製造業にとって大きな損害となります。事故の発生により、労働災害、環境や地域住民への影響、生産ロス、出荷ロス、事故に対応するためのマンパワーやコストが発生するとともに、ビジネスの機会、ひいては社会的信頼の失墜にも繋がります。

特に化学工業では、取扱方法を誤ると爆発や火災につながったり、漏洩すれば有害な物質を多量に取り扱っており、工場で万一事故が発生すれば、その影響は広範囲に及ぶため、無事故で安定操業を継続することは、私たちの命題です。

このため、製造設備の日常点検や保全を計画的かつ的確に行い、設備の健全性を維持するよう努力しています。また製造設備を正しく運転していくため、作業員への教育に重点を置くとともに、緊急時を想定した処置訓練も定期的に行っています。近年工場では作業員の若返りが進んでいますが、熟練者の持つ豊富な知識や経験を、確実に次の世代に伝承していくよう、マニュアルへのknow-whyの記載を推進しています。

さらには、設備や作業等において、いわゆる4M\*変更が発生する場合には、防災面を中心とした事前のアセスメントを繰り返し行う仕組みとしており、安全のレベルを高めることを徹底しています。

\*4Mとは生産の4要素。人(Man)、機械(Machine)、材料(Material)、方法(Method)。



美保 亨  
取締役技術生産本部長  
兼研究開発本部長

# 労働安全衛生



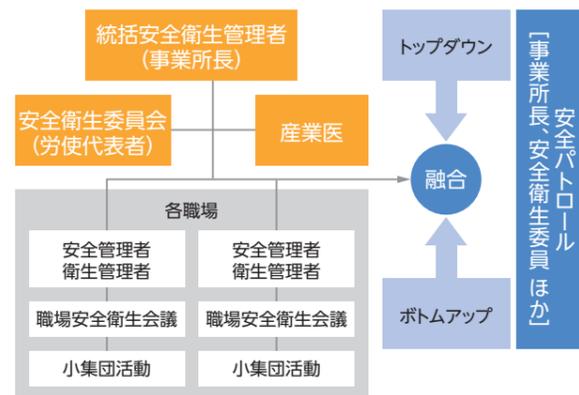
P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>休業災害ゼロ (従業員・協力事業所)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業災害: 1件 (従業員)</li> </ul>	★	<ul style="list-style-type: none"> <li>休業災害ゼロ (従業員・協力事業所)</li> <li>こころとからだの健康保持・増進 (メンタルセミナー実施、過重労働・長時間労働の抑制、要再検者の受診率100%)</li> </ul>

## 労働安全衛生への取り組み

### 労働安全衛生管理体制

東亜合成グループでは、労働安全衛生の推進項目および重点施策をRC推進会議で決定し、それに従って安全衛生活動を展開しています。各事業所では、各事業所長からのトップダウンと各職場からのボトムアップを融合させて安全衛生のレベルを高めています。

#### 体制模式図



### 安全衛生委員会・職場安全衛生会議

各事業所で労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会を毎月開催し、労使一体となり安全衛生活動を進めています。各職場では安全衛生会議を毎月開催し、労働安全衛生の維持・改善を進めています。

### 労働安全衛生活動

グループ全体でゼロ災運動を推進し、類似災害が起きないように、原因・対策の情報共有を行うために、国内外共通のデータベースを用いて管理を行っています。

2017年は、最新の労働安全衛生法などに対応して「一般安全衛生指針」を改訂し、グループ全体に周知しました。(→P52のTOPICS)

各事業所・各職場では、独自の安全衛生活動を行い、優良事例はオール東亜RC大会で発表し、他の職場の参加者は自職場に持ち帰って活用しています。

### 災害防止

2017年は1件の休業災害が発生し、休業災害ゼロの目標は達成できませんでした。不休災害は13件(従業員8件、協力事業所5件)が発生しました。休業災害の件数は1件ですが2名の被災者が出ています。保護具着用の不徹底や不適切な保護具による有害物の吸引や被液など、危険を先取りして考える意識の不足による類似災害が繰り返されています。また協力事業所や業務委託先への安全管理、教育体制の強化も取り組むべき課題です。

	東亜合成グループ		協力事業所・その他		合計	
	休業災害	不休災害	休業災害	不休災害	休業災害	不休災害
2013年	1	17	1	1	2	18
2014年	1	7	3(1)	3	4	10
2015年	4(1)	9	1	3	5	12
2016年	1	10(1)	4	2	5	12
2017年	1	8	0	5	1	13

※( )内の数字は、海外事業所の災害件数

## 健康経営への取り組み

### 健康経営推進課発足

企業における健康経営への取り組みがCSR活動として認知される中、2018年1月、当社は人事部に「健康経営推進課」を設置しました。

健康経営とは、従業員の健康保持・増進の推進が中期的に会社の利益向上に繋がる投資と考え、健康管理を戦略的・体系的・継続的に実施することです。

当課は、全社統括的な立場で、従業員の健康保持・増進を図る裾野の広い取り組みを進め、健康経営の推進を支援していきます。具体的には、有給休暇取得率向上や長時間労働の抑制、健康保険組合との協業による保険事業の拡充、ワーク・ライフ・バランスの促進、育児休業の取得促進、操業現場における心身負荷軽減の推進等の取り組みを実施します。これらにより、医療費増加や疾病による欠勤等のリスクを抑制するだけでなく、生産性や創造性の向上に繋げ、企業価値の増大を目指していきます。

### 従業員の健康管理

従業員の健康管理のため定期健康診断を実施し、有所見者に対しては健康指導を行っています。各事業所では、医師による生活習慣病予防に関する講習会を開催するなど工夫を凝らした健康増進活動に取り組み、従業員の健康管理意識の向上に努めています。さらに、禁煙外来の治

療が完了した従業員を対象に診療費用補助キャンペーンを実施するなど、さまざまな角度から従業員の健康づくりを推進しています。また、労働安全衛生法に基づき、各職場で化学物質リスクアセスメントを行い、化学物質による健康障害を防止しています。



健康講習会(本店)

### メンタルヘルスケア

メンタル不全者を発生させない職場を作り、従業員が自らのストレス状況を正確に把握するため、外部専門医療機関と提携し、毎年1回ストレスチェックを行っています。チェック結果をもとに職場ごとのストレス原因を分析し、産業医による面談の案内や管理職に対するメンタルヘルス研修などの対策を実施しています。さらに、専門機関と提携し、従業員や家族が匿名で相談できる電話相談窓口を設置しています。今後も労働安全衛生法をはじめとする関連法規の定めに従い、実効性のあるメンタルヘルスケアに取り組んでいきます。

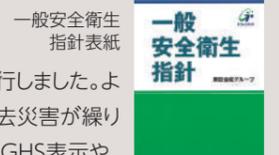


メンタルヘルス講習会 (アロン化成滋賀工場)

### TOPICS

#### 一般安全衛生指針改訂

東亜合成グループ「一般安全衛生指針」を見直し、2017年7月に第6版改訂版を発行しました。よりわかりやすく構成し、労働安全衛生法の改正など最近の状況に対応させました。過去災害が繰り返し発生している作業や機械設備を抽出し、注意事項を充実させました。化学物質のGHS表示や、当社でよく取り扱う物質の危険性・有害性について追記しました。また、ハラスメントや感染症の防止についても記載しています。従業員の他、構内で常時働く協力会社の方にも配布し、日々の作業の教育、確認に使用しています。



#### 優良職長厚生労働大臣顕彰受賞

平成28年度の川崎工場小野作業長に続き、平成29年度は高岡工場の栗田稔一作業長と、アロン化成尾道工場の三島浩明作業長の2名が「優良職長厚生労働大臣顕彰」を同時受賞しました。お二人とも、受賞のコメントで、現場全員の日々の安全への努力の積み重ねが認められたと、喜びを語っています。

化学工場として無災害を継続することは当たり前ですが困難な道です。今回の受賞で気を緩ませることなく製造現場での安全活動を継続していきます。



優良職長厚生労働大臣顕彰受賞

# 製品安全



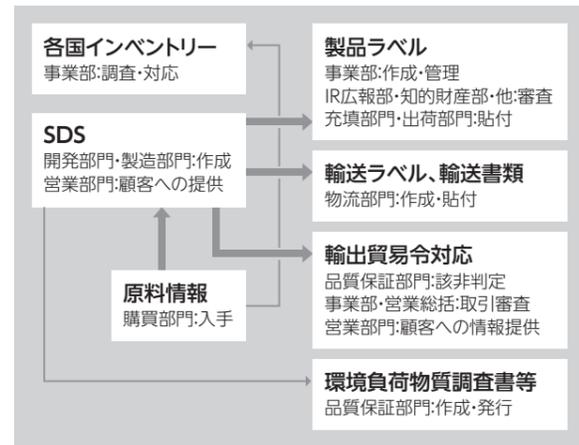
P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>製品ラベルの管理強化</li> <li>購買仕様書の整備・登録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理データベースへの情報登録完了</li> <li>計画通り整備・登録完了</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>購買仕様書の整備・登録</li> <li>化学品管理に関する法改正への着実な対応</li> </ul>

## 化学物質の適正管理

### 化学物質の安全管理体制

東亜合成グループでは、製品の開発段階でまず安全性調査を行います。さらに製品が新規化学物質に該当する場合などは、法令上の届出などに必要な安全性試験を行います。

試作、スケールアップなどの前に実施する防災会議では、製造時の保安防災のほか、取り扱い物質や製品の安全性を審議しています。薬傷危険などの急性健康有害性だけでなく、化学物質リスクアセスメントで慢性影響も確認し、法規制等要求事項への対応、環境影響なども審議しています。



### 情報収集・社内周知・対応支援

国内外GHS分類規則 国内外法規情報 国内外SDS書式 (技術生産本部 品質保証部・環境保安部)	輸送規則 輸出貨品令 (業務本部 物流部・営業総括部)
---	-----------------------------------

### 安全性情報の提供

SDS(安全データシート)、製品ラベル、イエローカードなどを通して、化学品の安全性情報を提供しています。

SDSは、化学品の取り扱い方法や安全性に関わる情報を詳しく伝えるための文書です。顧客、販売代理店、輸送会社など当社グループの化学品を取り扱う会社へ提出しています。ホームページからSDSをダウンロードできる製品もあります。

日本だけでなく、世界各国でGHS\*に則ったSDSや製品ラベルの各国言語での提供の義務化が開始されています。各国の法令に対応して製品ラベルも適宜更新しています。

製品情報を管理し、サプライチェーンに適切に伝達するために、多くの部門が関わります。技術生産本部・業務本部のメンバーが、情報収集・社内教育・相談対応などを行い、実施部門をサポートしています。

\*GHS: Globally Harmonized System(化学品分類および表示に関する世界調和システム)

### グリーン調達

お客様のグリーン調達の実現のため、提供する化学品の情報を提示しています。chemSHERPA\*での情報提供も行っています。

また、環境に配慮した安心できる製品を提供するため、「グリーン調達ガイドライン」を定め、原料・包装材料の環境負荷物質管理や、取引先の品質・環境管理調査を行っています。製品開発段階からグリーン調達を満たす原料を選定するための仕組みを設けています。

\*chemSHERPA: サプライチェーンにおける製品含有化学物質情報の伝達のためにデザインされたスキーム。2015年10月にリリースされ、2017年から各社の利用が本格化しています。

# 品質保証



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーム総件数 200件以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーム総件数 241件</li> </ul>	★	<ul style="list-style-type: none"> <li>クレーム件数削減</li> </ul>

## 品質保証体制

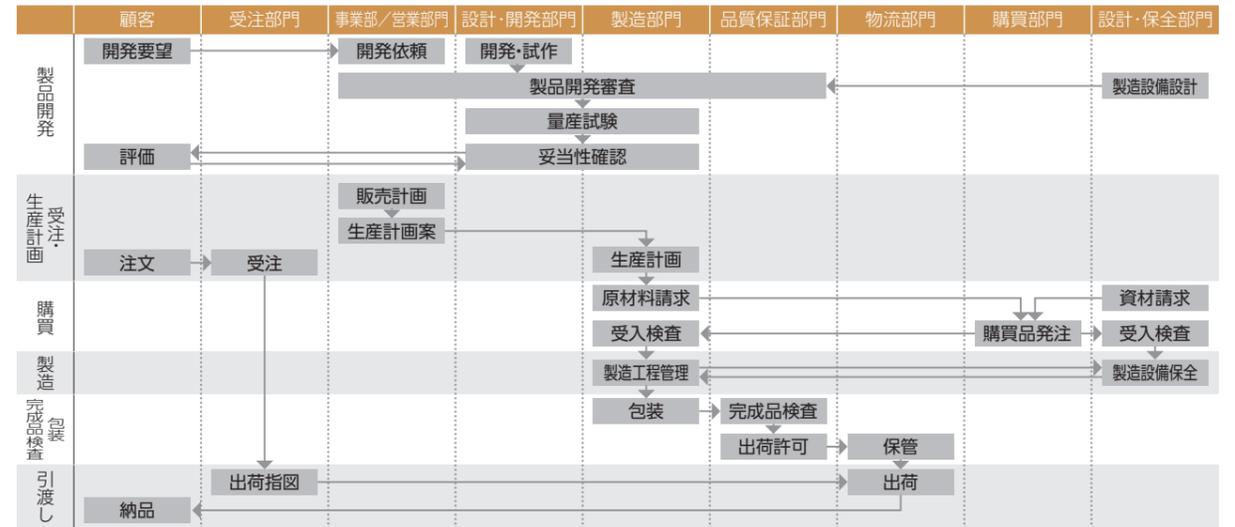
当社グループでは、品質方針として「品質管理を充実し、顧客に満足される製品とサービスの提供」を掲げ、品質保証体制の充実を図っています。品質マネジメントシステムの適切な運用と業務の一体化により、常に実績を上げるよう品質活動を推進しています。

さらに自社製造品だけでなく、製造委託製品についても

クレーム目標の設定や社内基準の確実な運用により品質管理・品質保証のレベルアップを推進しています。

品質保証体系図に示すように、各部門の役割と責任を明確にし、全部門一丸となって、品質パフォーマンス向上を図っています。

品質保証体系図



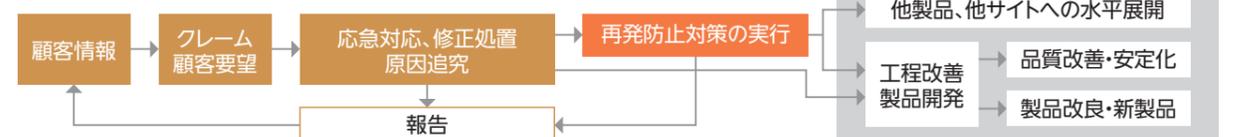
## お客さまからの声に対応する取り組み

苦情・クレームについては、営業部門が情報を受け、直ちに工場の品質保証部門に連絡し、関連部門が緊密に連携し、本質的な原因究明と効果的な再発防止対策の策定、速やかなお客さまへの報告と対策実行を遂行する仕組みを整備し、対応しています。発生した各クレームを要因別、サ

イト別に集計し、ターゲットを絞った活動を推進し、グループ全体の品質保証のレベルアップを図っています。

また、納入仕様書などお客さまへの文書提出について、仕組みの改善などを通して前年と比較し、大幅にスピードアップしています。

### 顧客要望、クレーム是正の工程/品質改善、製品開発への反映



# 物流安全



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
● 物流トラブルの削減	● 重大漏洩事故がなく、物流アクシデントは昨年比23%削減となり、目標達成	★★★	● 物流トラブルの削減

## 製品輸送時の安全管理

### 安全輸送・納入の推進体制

各事業所では、輸送会社と協議会を組織し、安全輸送・納入の推進を図っています。協議会では年度目標を立て、打合せや安全パトロールを通じて、その進捗状況の確認や安全作業を実施するためのルールが順守されているかを確認しています。また、新規納入先については事前に受入設備の確認を実施し、安全に納入できる体制を確立しています。

### トラブル情報の水平展開

物流部門では、全工場の出荷・輸送トラブルをデータベースに登録し、情報の共有化と水平展開を図っています。更に各拠点にて輸送業者を交えた打合せを定期的で開催し、実際に発生した事故事例やヒヤリハット等の危険情報を共有化しています。これらの取り組みの結果、物流トラブルは着実に減少しています。

### 緊急事態対応訓練の実施

各事業所で定期的に行われる防災訓練では、輸送業者も参加し、漏洩事故が発生した場合に備えた訓練を行っています。具体的には、危険物製品・劇毒物製品が漏洩した場合に備え、車載の空気呼吸器装着訓練や緊急連絡手順の確認、安全確保・避難方法の確認などの訓練を行っています。また、輸送する製品の性状や有害性に関する教育や漏洩時の応急処置に関する教育、車載緊急資材の点検整備なども実施しています。各事業所においても緊急資材材を準備しており、速やかに応援処置隊を編成して派遣できる体制を確立しています。

### 緊急事態対応訓練



ドライバーに対する説明

車両後退時の降車安全確認

空気呼吸器装着訓練

## TOPICS 物流安全の啓蒙活動に注力

物流部では安全且つ効率的な出荷体制を確立するため、定期的に社内講習会を開催し、輸送上の法規制等、安全・安定輸送に必要な知識の周知・習得に力を入れています。2017年9月には、本店と各拠点をTV会議で接続し「船舶・航空の危険物輸送に関する説明会」を開催し、96名が参加しました。また、東亜合成グループのグローバル展開に合わせ拡大・増加が見込まれる海外輸送に対応するため、輸出業務に精通した人材の育成に組み込み、国際輸送力の強化・充実を目指しています。



グループ社内報でも物流安全に関する啓蒙活動を実施

# 人権



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
● 障がい者雇用率2.0%の維持	● 障がい者雇用率2.0%以上を維持	★★★	● 障がい者雇用率2.4%達成
● ワークライフバランスの推進 (平均有給休暇取得率100%達成)	● 平均有給休暇取得率はグループ全体で89.6%となり、前年を上回ったもの、目標未達	★★	● ワークライフバランスの推進 (平均有給休暇取得率100%達成)
● 女性活躍の推進 (女性活躍推進行動計画の遂行)	● 女性活躍推進法に基づく女性活躍推進行動計画の遂行 ● 「配偶者海外転勤退職規則」「リエントリー制度規則」を1月から施行 ● 女性の製造部門への職域拡大の実施	★★	● 女性活躍の推進 (女性活躍推進行動計画の遂行)

## 人権尊重

### 人権保護の取り組み

#### ▶ 人権尊重とハラスメント対策

東亜合成グループでは、投資家・顧客・従業員に対する基本姿勢として「人を大切にする企業」を掲げ、基本的人権を尊重するとともに、多様な人々が個性を活かしつつ能力を発揮できる環境づくりに努めています。就業規則でセクシュアルハラスメント・パワーハラスメント・マタニティハラスメントの禁止を定めるとともに、管理職をはじめ従業員向けの教育や講習会を通じ、差別的行為や人権侵害行為を行わないよう人権意識向上に取り組んでいます。また、社内・社外の双方に通報窓口を設け、万一何らかの人権侵害が確認された場合には、社外の専門家を含む委員から構成された委員会で調査の上、速やかに是正措置を取れるようにしています。



人権セミナーの様子(徳島工場)

2.63%となっています。グループ全体で43名の障がい者の方々が働いており、そのうち17名が重度の障がいを持つ方々です。2018年以降も引き続き、障がい者が安心して働ける職場環境の整備を進めていきます。

#### ▶ 高齢者雇用

当社グループでは、年金制度の改正等を踏まえて、積極的に高齢者雇用施策の充実に取り組んでいます。2013年4月からは定年年齢を60歳から65歳へ引き上げ、公的年金受給開始年齢の引き上げに対応するとともにシニア世代の能力活用を図っています。

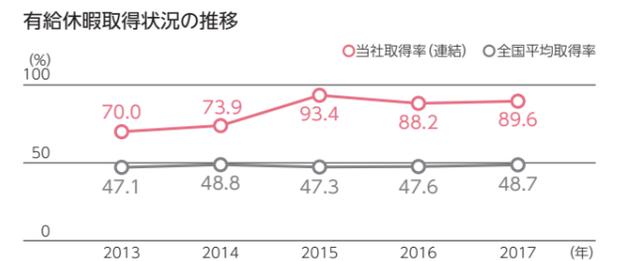
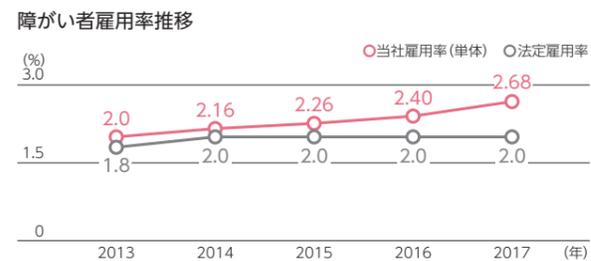
#### ▶ ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画への取り組み

当社グループは、従業員の「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」の実現を目指しています。仕事と家庭生活を両立させ、双方に良い影響を及ぼしていけるよう、勤務時間の見直しや総労働時間の抑制、休日数が多い交替勤務制の導入、在宅勤務制度の導入、年次有給休暇の取得推進等に取り組んでいます。なお、2017年には、グループ全体で12件の育児休業の利用がありました。今後も仕事と家庭を両立させながらキャリア形成を図れる環境づくりを進め、各々の多様な働き方の実現を支援していきます。

### 雇用制度の充実

#### ▶ 障がい者雇用

当社グループは、障がい者の方々の自立を支援するため、障がい者雇用の拡大に努めています。2017年末の障がい者雇用率は、当社単体で2.68%、グループ全体で



※全国平均出所:就労条件総合調査(厚生労働省)  
※当社は法定の有効期間を過ぎた年次有給休暇の保存を認めており(最大40日まで)、本数値は当該休暇の取得数も算定に含んでおります。

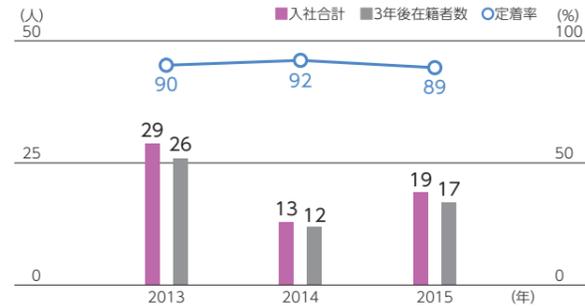
# 人財育成

## 人財育成

### 採用活動

東亜合成グループは主体的に考えて課題に取り組み、最後までやりとげる情熱と粘り強さがある方を求めています。求める人材は、会社説明会・ホームページなどを通じて明らかにし、より多くの方に理解していただけるよう努めています。また、選考では面接を重視しており、学歴や過去の実績よりも、今後、当社グループで活躍できる人物であることを重要な判断基準としています。

直近3年の新卒入社社員(3年後)定着率



### 人財育成方針および制度

東亜合成グループでは、グループビジョンの実現に向けて、高付加価値事業を強化するとともに、海外展開を含む成長戦略を推進しています。グループビジョンを実現する力の源は、一人ひとりの従業員であり、従業員は付加価値を生み出す会社の重要な財産であると考えています。会社の成長を担う優秀で意欲的な人材の育成を目指し、人材育成部を中心に人財育成体制の強化・再構築を図っています。自ら成長しようとする従業員を支援し、一人ひとりが持つ潜在能力の顕在化と最大化を目指し、階層別研修や昇格者研修など集合研修のほか、eラーニング、通信教育、海外研修など多様な教育プログラムを展開しています。

### 技術教育研修

現場力のある人材の育成、次世代への技術・技能伝承をさらに強化していくため、技術教育を行う担当者を当社名古屋工場内に配置し、技術部門基礎知識教育(操業、機器、単位操作、安全など)を実施しています。

集合研修では、受講者が基礎知識の習得だけでなく、機器への理解を深められるよう、自ら調べた職場の機器につ

いて受講者同士で意見交換を行う場を設けています。また、研修前に機器を調査する過程では、ベテラン社員からの知識やノウハウの継承も図られています。

また、体感実習、安全意識の向上、危険予知など安全教育の充実を図り、安定操業を実現する人材育成を進めています。



一般職2年目研修

### 自己啓発・キャリア形成支援

当社グループでは、ビジネス基礎力・マネジメントスキル・職務別専門知識など知識の習得や能力開発につながる通信教育、eラーニング講座を用意しています。修了者へは受講費用助成制度を設け、従業員が自己啓発に取り組みやすい環境を整備し、成長を支援しています。そのほかTOEIC試験の実施、公的資格の取得支援も積極的に推進しており、従業員のキャリア形成に役立てています。

### グローバル人材の育成

当社では、事業環境のグローバル化に対応し、海外展開拡大を支える人材を育成するため、「海外研修制度」を設けています。海外の当社拠点だけでなく、外部機関に従業員を派遣し、海外経験を積むことで、グローバルマインドの早期醸成を図っています。

### 提案表彰・職務発明等報奨制度

当社では、個々の従業員のさまざまな創意工夫やアイデアなどを吸い上げ、従業員の自己実現と職場の改良・改善の促進を図るため「提案制度」を設けています。また、職務に属する発明・考案・意匠を従業員が行った場合、「職務発明等報奨制度」により報奨しています。優秀な提案・職務発明等は、審査委員会を経て「表彰制度」で表彰されます。これらを通じて従業員の活性化・業務改善の推進・イノベーションを継続的に推進しています。

## 女性活躍

### 女性活躍推進法に基づく行動計画

当社グループは、2017年CSR重点目標に「女性活躍の推進」掲げて、女性が持てる力を十分に発揮できる仕組みづくりに着手しており、女性活躍推進に前向きに取り組むべく、行動計画を策定しました。当社は、行動計画として「女性採用比率を毎年30%以上」「女性管理職比率を2021年1月1日までに3倍増(2016年1月1日対比)」を掲げています。

### えるぼし取得

当社は、女性の活躍推進に関する取り組みが優れている企業に対して、女性活躍推進法に基づき厚生労働大臣が認定する「えるぼし」を取得しました。当社は、「採用」「継続就業」「労働時間等の働き方」「多様なキャリアコース」の4項目で認定基準を満たしており、今後も引き続き女性の活躍支援を実施していきます。

### 製造現場への女性配属

当社は、女性活躍推進の観点から、職場環境を整備し、これまで女性の少なかった製造現場への女性の職域拡大を進めています。これまで女性を配属した実績がなかった製造現場の交替勤務職場に2015年から女性の配属をおこなっています。

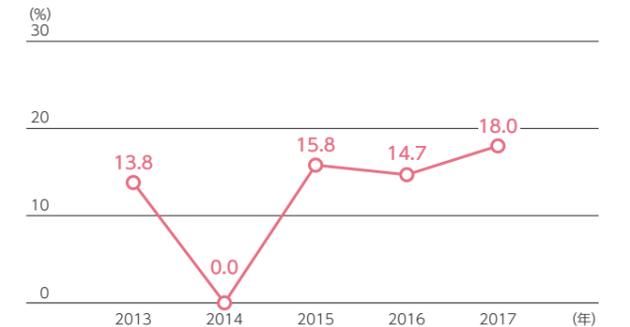
### リコチャレ

当社は、内閣府・文部科学省・経団連が連携して女子学生の理工系分野への進路選択を応援する取り組み「理工チャレンジ(リコチャレ)」の趣旨に賛同し、応援団体として登録しています。その一環として2017年に女子中高生を対象とした工場・研究所見学会を実施しました。見学会を通して、化学の面白さや無限の可能性、そして化学業界でも女性がいきいきと働き、活躍することができる職場があるということを伝えていきます。



リコチャレ工場見学の様子

直近5年の新卒入社社員の女性割合



### 女性の職域拡大 「製造部門初のジョブリーダー」

徳島工場製造部機能材料課は社員20名の職場ですが、その内女性が5名勤務しています。私は工場製造部門として初めてジョブリーダー試験にチャレンジし、合格しました。当初は男性のジョブリーダーと同じ様に活躍できるか不安もありましたが、他の女性社員とも協力し、女性ならではの目線で作業負荷の軽減、作業環境の改善を提案、実行することで役割を果たしてきました。まだまだ、未熟な部分もあると思いますので、周囲の力も借りながら安心・安全で活気のある現場にしていきたいと思っています。

VOICE



徳島工場製造部  
機能材料課  
橋本 みつ恵

## 人財育成

### 働きやすい環境づくり

#### ワーク・ライフ・バランスの推進

当社では従業員の「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」の実現を目指して、効率的に働くことの重要性を呼びかけ、2011年には全社的にノー残業デーを導入することによって、時間外労働の抑制に取り組んでいました。その後、効率的に働くことが定着したことから、2015年度より年次有給休暇の一層の取得を推進しています。今後も引き続き年次有給休暇取得を推進し、働きやすい環境の構築に努めていきます。

#### 配偶者海外転勤退職制度・リエントリー制度

当社は社員の仕事と家庭生活の両立支援を目的として、配偶者の海外転勤に同行する社員に最大3年間の休職を認める「海外転勤同行休職制度」と、配偶者転勤・育児・介護等の家庭事情のため退職した社員が当社への再就職を希望する場合に再雇用候補として登録する「リエントリー制度」を2017年1月に導入いたしました。今後は両制度の運用を通じて、社員の家庭事情に柔軟に対処していくことを目指しています。

#### 自己申告制度

当社では、従業員の適正配置の推進を図ることを目的として「自己申告制度」を設けています。年に1回、自己の仕事に対する考え方・希望を会社に申告し、申告内容について所属長との各個人との間で面談を行っています。

#### その他の制度

当社では、以下のような諸制度を整備し、従業員にとって働きやすい環境づくりを心掛けています。

- 結婚休暇、忌服休暇、看護休暇、半日有給休暇等の各種休暇制度
- フレックス勤務制度、短時間勤務制度
- 寮、社宅制度
- 配偶者海外転勤退職制度
- リエントリー制度
- 在宅勤務制度



立志寮

### 在宅勤務制度の活用による仕事と育児の両立

## VOICE

育児をしながら債権管理担当として勤務しています。業務のペーパーレス化によって自宅で勤務可能な環境が整ったことをきっかけに、育児と仕事の両立のため、昨年から週に2回の在宅勤務を始めました。オフィス勤務日は手形などの回収とシステムへのデータ入力を行い、在宅勤務日はデータ入力後の処理作業を行っています。社内情報インフラも整備されており、在宅でもオフィスと同じように上司や同僚とコミュニケーションをとることができます。さらに、自宅で集中して作業できるため、業務効率が高まったと感じます。通勤回数が減り、時間に余裕が生まれたことで子供と触れ合う機会も増え、公私両面でメリットの大きな制度です。



東亜ビジネスアソシエ  
シェアードサービス事業部  
財務グループ  
中江 万希子

### TOPICS シンガポールの労働省(MOM:Ministry of Manpower)から模範的企業として認可

Toagosei Singapore(TGS)は、シンガポールの労働省(MOM:Ministry of Manpower)から模範的企業として認可されました。これは、人材開発への取り組み<sup>※1</sup>や雇用機会提供が公平で進歩的である<sup>※2</sup>と認められたものであり、TGSは人材開発等のこれまでの活動を継続していきます。

- ※1 人材開発への取り組み
  - シンガポール政府主催のトレーニング講座に積極的に現地従業員を派遣。
  - 東亜合成の技術や知見を現地従業員に伝承。
- ※2 公平かつ進歩的な雇用機会の提供
  - 全従業員の大部分が現地雇用者である(内、半数は会社創設時からのメンバー)。
  - 62歳定年対象者(1名)の雇用延長を実施。



## 社会貢献・コミュニケーションの充実



P 2017年の目標	D 2017年の主な実績	C 達成状況	A 2018年の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●自然保護、美化・緑化、文化・スポーツ活動の支援</li> <li>●寄付・寄贈の実施</li> <li>●将来の化学人材育成、ダイバーシティ推進等の各種プロジェクト参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所所在地域での植樹植林活動・清掃美化ボランティア活動、スポーツ大会支援等を継続</li> <li>●九州北部豪雨義援金支出</li> <li>●化学人材育成プログラムへの参加・協賛継続、「トビタテ!留学JAPAN 日本代表プログラム(留学支援)」へ寄付金支出継続</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会に役立つ寄付・寄贈の実施</li> <li>●美化・緑化活動、文化・スポーツ活動への参加・支援</li> <li>●将来の化学人材育成、ダイバーシティ推進等の各種プロジェクト参画</li> <li>●生物多様性の保全活動</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所周辺の美観維持活動の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●定期的に工場外周の点検巡回ならびに清掃を実施</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業所周辺の美観維持活動の徹底</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域対話の拡大</li> <li>●会社情報の発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場見学、職場見学等の受け入れ</li> <li>●地域防災訓練等に参加、協力</li> <li>●地域団体の会合、地域対話等を各事業所、グループ各社で実施</li> </ul>	★★★	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域対話の拡大</li> <li>●会社情報の発信</li> </ul>

### 社会貢献活動

#### 社会貢献委員会としての活動

東亜合成グループでは、労使共同の社会貢献委員会を全社レベル・事業所レベルで設け、古切手回収活動やスポーツ支援活動、大規模災害時の義援金・救済金の寄付などの社会貢献活動を積極的に推進しています。

#### 美観維持、生物多様性保全等を目的とした活動

各事業所では、下表に記載する活動を実施しており、多くの従業員が参加しています。



九州北部豪雨災害復旧ボランティア活動(大分ケミカル)



徳島県が行う「とくしま協働の森づくり事業」の森林CO<sub>2</sub>吸収量証明書交付式(徳島工場)

#### 美観維持、生物多様性保全等を目的とした活動

事業所	活動
東亜合成グループ各事業所	●各事業所周辺のゴミ拾い、除草、樹木苗等の植栽 ●環境省主催「CO <sub>2</sub> 削減/ライトダウンキャンペーン」参加
東亜合成 名古屋工場	●「愛知県企業の森づくり活動」
東亜合成 横浜工場	●「鶴見川クリーンキャンペーン」、「鶴見川クリーンキャンペーン」清掃活動
東亜合成 横浜工場、川崎工場、本店	●「かながわ森の町内会」、「森の町内会」間伐に寄与する紙の一部使用
東亜合成 高岡工場	●「伏木ふれあいの杜」里山整備ボランティア活動
東亜合成 徳島工場	●「高丸山千年の森」、「とくしま協働の森づくり」間伐、整備ボランティア活動 ●上記活動により平成29年度森林CO <sub>2</sub> 吸収証明書(120.36トン)県知事より授与
東亜合成 広野工場	●「ひろの防災緑地草刈り」「広野町クリーンアップ作戦(浅見川清掃)」
アロン化成ものづくりセンター、名古屋工場	●東海市アダプトプログラム「新宝緑地運動公園」清掃活動
アロン化成ものづくりセンター	●社内ビオトープの維持・管理
張家港東亜愛生化学	●香山クリーン作戦 清掃活動

### 献血300回達成

## VOICE

長年にわたり続けてきた献血が昨年300回を超えました。社会貢献を特別に意識したわけではなく、献血を続ける父の姿を見て自然に始めたものです。私にとって献血は、趣味であり、自分の健康管理にもメリットがあり、輸血が必要な患者さんの役にも立つ「一石三鳥」のライフワークとなっています。趣味にするかとはもかく、健康管理と社会貢献の一石三鳥になる献血にひとりでも多くの人が参加されることを望みます。



アロン化成名古屋工場  
継手製造課  
入村 聡

## 社会貢献・コミュニケーションの充実

### コミュニケーションの充実

#### 地域社会との共生

地域社会に根ざして事業活動を展開する東亜合成グループにとって、地域社会との共生・コミュニケーションは欠かすことができません。国内外の各事業所では地域社会の皆様と、直接コミュニケーションできる機会を多く持つよう努め、対話と交流による地域の活性化や信頼関係の構築を進めています。

#### 工場見学

当社グループの国内外の各事業所では、工場見学会を定期的に開催しています。近隣の中小高校生や自治会の皆さまをはじめ、さまざまなステークホルダーの皆さまを受け入れ、ご要望に応じた見学会を開催することにより、当社グループに対する理解促進を図っています。



独立行政法人国際協力機構(JICA)の研修員の見学(アロン化成ものづくりセンター)



高岡市の姉妹都市である米国フォートウェーン市高校生の工場見学(高岡工場)

#### 次世代育成

当社グループの国内外の各事業所では、大学・高専の学生を対象としたインターンシップの受け入れのほか、小中高生を対象とした体験学習や出前授業等の活動を行っています。これらの学習の機会を通じて、化学に対する興味や関心の喚起、事業活動への理解促進、職業観の醸成が図られています。



茨城県立三和高等学校生の職場体験学習(アロン化成関東工場)

#### 災害復興支援

福島県広野町にある広野工場は、東日本大震災の被災地が震災以前の姿を取り戻せるよう、復興フェスティバルへの協賛、防災緑地の植樹、寄付・寄贈など、自治体や地域活性化に関わる団体と連携しながら、継続的に支援活動に取り組んでいます。



Jヴィレッジ復興寄付金受納式(広野工場)



張家港市特殊教育学校訪問



研修生 孫好さん(写真中央)と指導した張家港東亜迪愛生化学有限公司従業員

### TOPICS 中国・張家港における地域コミュニケーション

張家港東亜迪愛生化学有限公司は、地域社会の一員として、地域の皆さまとの連携・共生を大切にしています。2017年は社会貢献活動の一環として開業以来10数年にわたり継続している張家港市特殊教育学校への寄付、文具やお菓子の寄贈を行いました。また、次世代育成を目的に、日本語を専攻する地元の大学生の就業体験研修を行い、生産管理の体験、実験研修等を通じて化学産業への理解を深めてもらいました。当社は、今後とも地域の方々と積極的にコミュニケーションを図りながら、地域社会を活性化するさまざまな活動を行っていきます。

## サイトレポート

### 国内(工場、研究所) ※従業員数は2017年12月現在

#### 横浜工場

従業員数:104名

保安防災活動と環境対策強化で、無事故・無災害・重大環境トラブル撲滅に取り組んでいます。高品質製品の安定供給・品質保証体制強化を推進していきます。



##### 主な生産品目

- カセイソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、高純度液化塩化水素、易溶性酸化銅など

#### 徳島工場

従業員数:105名

「快適に仕事ができる職場へ」を基本方針としてCSR全体のレベルアップに努めました。安全面では基本事項及び変更管理の徹底について取り組み、無災害を達成することができました。環境面では環境保全協定書を締結し地域・行政と協力を深めています。



##### 主な生産品目

- カセイソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、高純度液化塩化水素など
- 無機イオン交換体、銀系無機抗菌剤、無機消臭剤など

#### 川崎工場

従業員数:43名

安全・安定操業継続を目標に、設備の適正管理とプラント固有の操業技術や設備知識に関するknow-why教育を進め、過去から蓄積してきた技術の伝承に注力し、今年も年間無事故・無災害、環境事故ゼロを継続しています。



##### 主な生産品目

- 塩化ビニル樹脂、スルホン酸基含有特殊モノマー

#### 名古屋工場

従業員数:367名

「伝え、受け継ぎ 人材育成」を工場スローガンとしてRC活動を推進しました。この活動では次世代に継承する知見やknow-whyを作業基準書と連動させた技術文書とすることで見える化させ、安全・安定操業を確保しました。



##### 主な生産品目

- カセイソーダ、塩酸、次亜塩素酸ソーダ、硫酸など
- アクリル系モノマー、オリゴマー、ポリマーなど

#### 高岡工場

従業員数:145名

2017年は、「チェンジ&チャレンジ」をスローガンに、業務の見直しと最適化を進めました。また、各自が、自分の仕事の意味と重要性をしっかりと認識することを基本に、災害・トラブル対策の確実な実施と横展開を徹底し、その撲滅に取り組みました。



##### 主な生産品目

- アロンアルファ®などの一般用接着剤、工業用接着剤
- カリ関連無機製品など

#### 坂出工場

従業員数:17名

女性目線での職場巡視や社外安全推進者との合同パトロールによる安全衛生管理の強化に取り組み、無事故・無災害を達成しました。環境保全活動では、CO<sub>2</sub>排出量及び、廃棄物の削減目標を達成しました。



##### 主な生産品目

- アクリル系高分子凝集剤など

#### 広野工場

従業員数:61名

2017年は、設備増強工事や新製品立上げの中、従業員・工事業者全員で、基本事項の順守徹底に取り組み、2005年からの無災害を継続しました。2018年は、廃棄物削減を達成出来る様、取り組んでいきます。



##### 主な生産品目

- アクリル系ポリマーなど

## R&D総合センター

従業員数:138名

研究開発加速のため、R&D総合センター全体視点でのテーマフォローや人員最適化を行うと共に、外部の力も積極的に活用しています。安全活動では危険予知(KY)活動充実とKnow-Whyの伝承によりゼロ災を継続中です。



### 研究組織

- 基盤技術研究所、応用研究所、製品研究所、生産技術研究所

## 大分ケミカル

従業員数:48名

アクリル酸新プラントが高稼働となる中、一層の安全、安定を目指して工場管理の強化に努め、昭和59年の操業開始当時から続く連続無災害を継続しています。また、RC地域対話や近隣小中学校への出前授業等を通じて、“地域とのふれあい”を大切にしています。



### 主な生産品目

- アクリル酸など

## アロン化成 名古屋工場

従業員数:87名

ゼロ災害を達成するため、構内安全衛生パトロールを強化し、特に過去の災害傾向を踏まえた行動面の指摘を重点的に行いました。また、過去の災害の振り返りを行うことで、記憶の風化に伴う再発の防止に取り組まれました。



### 主な生産品目

- プラスチック製パイプ、継手、マス、マンホールなど
- エラストマーコンパウンドなど

## アロン化成 尾道工場

従業員数:60名

安全パトロール指摘事項の対策期限遅延防止のため、パトロール指摘方法を工夫し遅延を0件にしてより安全な職場の構築を全員で目指しています。また、地域貢献として工場～駐車場の道路清掃活動を2回実施しました。



### 主な生産品目

- プラスチック製継手・マス・マンホール・蓋、各種部品など

## 先端科学研究所

従業員数:6名

機能性ペパチドに関する共同研究(競争的研究資金による研究事業にも参画)を推進しています。安全面では過去の災害対策の見直しや類似KYを実施し、日々のヒヤリハット・一人KYによって安全感受性を維持継続しています。



### 研究内容

- バイオインフォマティクス関連

## アロン化成 関東工場

従業員数:48名

2017年は安全活動の重点項目として転落・転倒対策を実施しました。作業ステージへの安全柵の設置による転落防止や、転倒災害が発生した段差のスロープ化と手すりの設置による再発防止等の対策を実施しています。



### 主な生産品目

- プラスチック製継手、マス

## アロン化成 滋賀工場

従業員数:59名

安全衛生活動の取り組みとして、5Sの原点に立ち返って「整理」活動を全職場をあげて実施しました。構内の不要物抽出と処分を徹底的に行った結果、作業効率、安全性の向上につながり、従業員の意識も高まりました。



### 主な生産品目

- 樹脂性ポータブルトイレ、家具調ポータブルトイレ、シャワーベンチ、メーターボックスなど

## アロン化成 ものづくりセンター

従業員数:89名

地域社会貢献の一環として、東海市が小学生向けに初めて実施した行事(ものづくり道場)に名古屋工場と共同で参画するなど、見学受け入れを積極的に実施しました。また新宝緑地運動公園の清掃活動を名古屋工場と共同で実施しました。



### 研究組織

- 新製品探索、知的財産、デザイン、設計、テクノロジー開発、材料研究
- 事業開発(管材、ライフサポート、エラストマー)

## 海外(製造会社)



## Toagosei America Inc.

従業員数:60名

当社では2017年も2件のOSHA\*報告事故(休業には至らず)が発生しました。今一度全従業員に注意を喚起し、無事故・無災害への取り組みを強化していきます。



※OSHA  
米国労働安全衛生庁

### 工場

- アメリカ合衆国オハイオ州

### 主な生産品目

- 一般用接着剤、工業用接着剤など

## 東亜合成(珠海)有限公司

従業員数:47名

2017年は工場一丸で生産性向上に取り組めました。全員参加の生産工程改善提案活動の展開、班別生産性掲示による切磋琢磨及び各種機械の適正運転条件習得等により、当年生産性は前年比20%アップしました。



### 工場

- 中国広東省珠海市

### 主な生産品目

- 一般用接着剤、工業用接着剤など

## 東昌化学股份有限公司

従業員数:24名

2017年はゼロ災活動の一環として、KYおよび指差呼称の習慣化を推進しました。2018年も休業災害・重大事故ゼロを達成するとともに、スタッフ全員の更なる安全意識向上に引き続き努めていきます。



### 工場

- 台湾桃園市觀音工業區

### 主な生産品目

- アクリル系モノマーなど

## Toagosei Singapore Pte Ltd.

従業員数:28名

安全教育・リスクアセスメントの強化等のゼロ災活動を継続して推進し、2017年の事故・休業災害は発生しませんでした。今後もリスクアセスメントを通じてCSR意識を高め、得られた情報の発信・共有にも努めていきます。



### 工場

- シンガポール

### 主な生産品目

- アクリル酸エステル、アクリルポリマーなど

## 張家港東亞迪愛生化学有限公司

従業員数:51名

2017年はゼロ災活動の推進で作成した現場保安力マトリックスを活用し、保安力向上について討議を行いました。結果、安全への経営者の更なる関与と草の根の安全活動推進を次年度の目標に繋げる事を確認しました。



### 工場

- 中国江蘇省張家港市

### 主な生産品目

- アクリル系モノマーなど

## Toagosei (Thailand) Co.,Ltd.

従業員数:9名

2017年6月に着工しました。工事業者の方への新規工事前の安全指導、安全パトロールによる不安全箇所指摘と改善策実施の確認徹底、朝礼時の当日作業確認等を行った結果、休業災害・重大事故ゼロを達成しました。



### 工場

- タイ王国チョンブリ県

### 主な生産品目

- アクリル系ポリマーなど



東亜合成株式会社

グループ経営本部 IR広報部

〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号

TEL.03(3597)7215 FAX.03(3597)7217

URL <http://www.toagosei.co.jp/>



この冊子は、FSC®認証紙を使用し、印刷には環境に配慮した植物油インキを使用しています。  
また、本文用紙は森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。